

兩眉 兩眼睛 肩叢 兩腮 兩眼胞 兩耳 兩耳輪 兩肩甲 兩耳垂 兩腋腮
マユゲ メノロトミ マユゲノカシラ マブダ ミ、ミ、ミ カメサキ ミ、ミ ワキトシシナイダ
 鼻 兩胎膊 鼻竅 兩肱 人中 兩手腕 上下唇吻 兩手
ハナシラハナノサキ カタノミダ ハナノアナ ヒチノワシカカミ ハナシタニシ テクヒン、ヒカミストコロ クチビ
 上下齒牙口舌 兩手心 額頰 十指 結喉 十指肚 兩血盆 十指甲縫
マイバチクバキナシタ チンハラ チトカヒノリンシタ チンユビ ノド チユビハラ クヒンツキホキトコロ チンツシナイキハ
 兩肋 兩脚面 兩膀 兩脚跗 莖物 十趾 兩腿 十趾甲 兩膝 兩膝肋 合面致命處
アブラ アシノコウ マダグラ アシノクム アシノユビ モ、 アシシメ ヒヤ ムカンスキ ワツツシ
 腦後 兩耳根 脊背 兩後脇 脊脊 兩腰眼
アタマノハチ ミンソクナ セナガ ウシロワキハラ セシ コシノクミ
 合面不致命處

髮際 兩膝 項頸 兩腿肚 兩臂膊 兩脚跗 兩脚跟 兩手腕
ケビシ ヘカミンハイキハ ヒヤンビカミ クビ ムカフスネウシロ ウデノウシロ アシノタラ ヒ アシノアトクヒス
 兩脚心 兩手背 十趾 十指 十趾肚 十指甲 十趾甲縫 兩後肋 兩臂 殺道 兩腿
ツチノマズ テノセナ テンコビ アシノユビハラ チンツメ アシノツメハヘキウ ウシロアハラ シリコフダ コツセン モ、
 屍圖 仰面 致命處ハ黒靴ヲ付 別ニ圖アリ
シ 以テ之ヲ別ツ 別ニ圖アリ
 第二條 檢視ノ要ハ人ニ毆打威迫セラル、等ニ因テ自死シ又ハ他人ノ殺後自死ニ詐爲スル
 等都テ自死ト他殺トヲ辨明スルニ在リ
 第三條 檢視ニ臨ムキハ香竈藥若シクハ香油水ヲ鼻端ニ塗ル等豫メ惡臭ヲ防クコト注意
 スヘシ已ニ其場ニ至レハ屍ノ風下ニ立ヘカラス然ラサレハ之レカ爲メ痲病ヲ感得スルコ
 アリ

第四條 屍アル地ノ近傍ニ兇器其他行兇人探偵ノ手掛リトナルヘキ物品ノ有無及ヒ屍ノ置
 所又ハ之ヲ掩ヒタル物等ヲ巡見搜索スヘシ
 第五條 屍親知音者及ヒ其近隣ノ者ニ本人家ヲ出ルキノ所持品同伴者ノ有無并時日及ヒ何
 ノ爲メ何處ニ往キシヤ等廣ク訪察スヘシ
 第六條 屍ハ仰面頂心ヨリ起リ合面十指甲縫ニ至ルマテ逐一檢視スヘキハ論ヲ俟タスト雖
 殊ニ髮際耳竅鼻孔糞門産戸喉内ニ注意スヘシ火燒カ爲メ爲シタル針釘ノ類ヲ打挿スル
 コアリ
 第七條 眞ノ犯罪ヲ知ルコト譬ヘハ爰ニ殺人ノ犯アリ其發見セシ一時間前ニ(甲)一人被告人
 ノ家ヨリ出ルアルヲ親タルモノアリ由テ以テ事犯ノ疑ヲ甲ニ歸セントス又二時間前ニ
 (乙)一人其家ニ向テ入ルアリシヲ親タルモノアリ檢視ヲ爲スニ當テ醫員屍體ヲ檢シ被害人
 ノ絶命ハ二時間前ニアリト證スルキハ其疑ヲ轉シ乙ノ事犯ナルヲ知ルヘシ
 第八條 放火ノ戸ヲ檢視スルコトハ其發火ノ場所ト模様トヲ聞糾シ而シテ其貧富素行且其所
 爲ハ他人ノ意恨ニ由ルカ或ハ行盜ニ由ルカ又ハ自ラ放火シ他人へ可果義務ヲ免カル、等
 ノ肝情ニ出タルニ非ルヤヲ察スルヲ必要トス
 第二節

〔檢視心得〕

第九條 凡毆死ノ屍ハ口眼開キ髮亂レ衣服整ハス肚腹脹レス兩手散シ或ハ溺內衣ヲ汚ス

第十條 棍棒ノ類ニテ毆打シタルハ其痕長シ若シ圓キハ手拳等ノ疵ト知ルヘシ其痕ハ都テ青赤或ハ紫黒ナリ

第十一條 青紫色ノ疵アルモ舊傷現傷ノ別分明ナラサルハ其疵上ニ數滴ノ水ヲ點シテ試ムヘシ水止リテ流失セサレハ現傷ナリ

第十二條 屍上痕迹ヲ見サルハ能其腎囊ヲ視ルベシ人大醉大飽ノ時爭鬪等ニテ暴怒觸逆スレハ氣絶シテ腎子腹下ニ縮入スルモノナリ温醋ニテ軟衣綿絮ノ類ヲ濕シ罨スル一飯時ノ後手ヲ以テ小腹ヲ按スレハ腎子墜ツヘシ

第十三條 棍棒ノ類ニテ打傷シタルハ皮膚共ニ腫起ス故ニ醋ヲ澆キテ其上ヲ掩ヒ暫ク之ヲ温ムルハ其痕跡宛然トシテ見ルヘシ

第十四條 死屍ニ火燒シタル青竹篋ヲ以テ烙シテ痕ヲナシ打疵ト詐ルハ其痕焦黑色アリ淺平ニシテ硬カラス又楓樹皮ヲ以テ罨シテ傷ヲ成スモノハ其痕壞爛シ色黒クシテ四圍ニ青色アリ毫モ腫ル、フナク之ヲ檢スルモ硬カラス

第三節 殺傷死

第十五條 凡被殺傷者ノ屍ハ口眼開キ髮鬢散亂兩手少シク握ル自殺死ハ眼口閉合シ手拳シ臂曲縮ス

第十六條 自ラ喉或ハ腹ヲ割キタルモノハ其創頭深クシテ末ハ淺シ蓋シ初メハ刃ヲ突立ル力強キカ故ニ創頭深シ漸ク末ニ至リ力衰ヘルニヨリ創モ亦淺キ所以ナリ

第十七條 生前殺傷セラル、者ハ刃ヲ受ル處皮骨緊縮シテ四畔ニ血滲アリ若シ支解セララル、者ハ筋骨皮肉稠粘シテ皮縮リ骨露ル

第十八條 死後殺傷セラル、者ハ皮舊ノ如ク血滲滲皮セス皮緊縮セス刃ノ盡ル處血流ナク白クシテ痕下ヲ擠擦スルモ肉内ヨリ清血ノ出ルコト無シ

第十九條 首ヲ截斷スル者生前ニ係ルハ項下ノ皮肉緊縮シ骨凸出シ兩肩聳立ス死後ナレハ此狀無シ

第二十條 四肢等處々ニ散亂スルガ如キハ先之レヲ拾聚シ其創口鮮血ヲ見サレハ死後支割シタルモノナリ

第二十一條 口ヲ以テ指ヲ咬下スル者ハ齒上ニ毒アリテ命ヲ致スコトアリ必ス創口齊シカラズシテ膿水淹浸シ皮肉壞爛ス

第二十二條 鳥鎗傷ニテ死スル者ハ彈丸ノ入口小ニシテ貫出スル所大ニ壞闌セリ若シ肚腹ニ

〔檢視心得〕

中リ貫出ノ蹟ヲ見サレハ其創口敗爛スヘシ之ヲ淘洗シテ檢スレハ鎗子有ル可シ

第四節 勒死

第廿三條 自ラ勒死スル屍ハ兩眼閉合シ唇吻開キ齒ヲ露ハシ舌ヲ齧出ス一三分許固ク兩手ヲ握リ手裡ニ繩ヲ握リタル迹アルヘシ多クハ糞ヲ漏ス

第廿四條 自勒死ハ繩ノ結目喉下ニ在リテ項後ニ周繞セル痕ヨリモ深シ其體黃色ニシテ枯瘦セリ

第廿五條 他人ニ勒殺サレタル屍ハ口眼開キ目子突上シ舌出テス手ノ指甲物ニ爬着キタル形狀アリ糞ヲ漏サス

第廿六條 他人ニ勒殺サレタルハ其疵項上ニアリテ色黒ク前ヨリ後ニ周繞シ一所ニ繩行交シタル所アリ項後ノ疵最深モ深シ畢竟舌ヲ齧出シ糞ヲ漏スハ自勒ノ證ナリ

第廿七條 人ヲ勒シテ未ダ死セサル中直チニ釣懸シテ自縊ニ裝スルハ甚ク辨シ難シ宜ク次節ノ徵ニヨリ檢考スヘシ

第五節 縊死

第廿八條 自縊ノ死ハ兩眼閉合シ唇黑色ニシテ齒ヲ露シ舌展テ齒ニ及ヒ口中血ヲ含ミ口吻ノ兩角ニ涎ヲ出シ面色紫赤ニシテ兩手ノ大拇ヲ握リ十指甲色黒ク陰莖痿セズ腎子下リ溺

ヲ漏ス

第廿九條 自縊ノ者喉下ノ疵其脚虛ナレハ深ク實ナレハ淺ク其體肥レハ深ク瘦レハ淺ク繩索緊細ナレハ深ク懈粗ナレハ淺ク全幅ノ帛帕等ナレハ散スルモノ也

第三十條 病人ノ床上ニ在テ死ヲ速キ縊スル者ハ眼合ヒ唇開キ齒舌ヲ咬ミ肉黃色ニシテ體瘦セ手握リ臂後ニ糞ヲ出シ左右ノ手ニ縊物ヲ把ルナリ

第卅一條 一旦自縊セシ者ヲ解卸シ後ヲ復タ死スルキハ必ス肚腹膨脹シ舌ヲ齧マス糞ノ出ルナリ

第卅二條 甲處ニ縊死スル屍チ乙處ニ移シテ掛ケタルキハ必ス兩痕アリ原痕ハ紫赤ニシテ血滲アリ後ノ痕ハ只白色ノミ血滲ナシ

第卅三條 床檣上或ハ船艙内等ニテ屍横ニ掛レハ頭頓シ身倒ニ臥シ痕迹斜ニシテ腦後髮際ニ至ラス

第卅四條 窓櫺或ハ樹木ノ類ヲ隔テ、勒殺シテ自縊ニ裝スルモノハ其繩痕交錯セズ多クハ手過シテ却テ極染ノ黒黯色アリ耳後髮際ニ至ラス

第卅五條 人ヲ殺シテ後自縊ニ裝スル者ハ口眼開キ手散シ髮亂レ舌出テス陰莖痿シテ腎子上リ痕迹淺淡ニシテ血滲ナシ

〔檢視心得〕

第卅六條 火烙ヲ用井テ屍體ニ痕ヲ成シ自縊ニ假作スル者ハ其色紅或ハ焦赤色ニシテ濕ヲ帶フ

第六節

第卅七條 自ラ投溺スル者ハ口開眼閉チ腹勃脹シ手裡ニ皺寄リテ足底ノ皺ニ比スレハ其色白クシテ脹クレ手脚甲縫ニ泥沙アリ

第卅八條 溺死ノ屍ハ水中ニ在レハ暑熱ノ時ハ一二日寒冷ノ時ハ五六日ヲ經レハ男子ハ俯シ女子ハ仰向テ水面ニ浮出スベシ

第卅九條 殺後水中ニ去入シタルハ肉色黃クシテ口眼閉口シ兩手拳縮セス肚腹膨脹セス口鼻内ニ氷沫ナク脚底皺白ス却テ腫ル、コアリ手脚甲縫ニ泥沙ナシ總身堅硬ナリ

第四十條 溺死ノ屍ヲ檢スルニ未タ人ト爭鬪セスシテ頭面ニ刀傷等アル者須ラク之レヲ洵シテ水中ヲ看ルヘシ人初メテ水ニ入ルル氣猶ホ絶セス物ニ觸レテ中傷スレハ自ラ血痕アルヲ猶生時ノ刃創ノ如シ

第四十一條 溺死ノ屍ニ傷所ナクモ面色紫赤クシテ口眼開キタルハ多ク人ニ倒提セラレ水ニ入リシモノナリ

第四十二條 井ニ投スル者ハ水面必ス泛泡アリ而シテ其脚ノ上下ニ因テ尅逼推送ノコトニ由

ルト否トチ檢考スヘシ人ニ推送セラル、者ハ手開キ眼モ亦少ク開ケリ

第七節 焚死并湯潑死

第四十三條 燒死者ハ能其屍ニ屋瓦茅灰等ノ壓覆スルト否トチ檢スヘシ蓋シ屋宇燒燬ニ因テ燒死スル者ハ其屍體瓦茅ノ下ニ在リ若シ上ニアレハ人ニ推送セラル、モノナリ

第四十四條 左病者燒死スルキハ屍焦黑色ニシテ口眼開キ或ハ齒唇ヲ咬ミ手膝拳曲シ皮膚ニ黃色ノ脂膏突起スルコトアリ

第四十五條 人ニ燒殺セラレタル者ハ手爪拳シ兩足縮テ展ヒス耳目鼻口中ニ灰入りテ焦色アリ殺後火中ニ投スル者ハ兩足展伸シ耳目鼻口ニ灰入りテ焦色アリ

第四十六條 殺死ノ屍ヲ火中ニ投シ痕迹分明ナラサルモノハ米醋ヲ灑ヒテ後檢スヘシ其血痕宛然トシテ見ルヘシ

第四十七條 湯潑傷ヲ被ル者ハ皮肉皆爛レ皮割折スルキハ色白ク肉ニ着ク皮モ湯ヲ經レハ亦白シ且肉赤ク爛ル傷重キモノハ死ス

第四十八條 鬥毆等ニテ推入セラレ湯潑傷ヲ被ル者ハ必ス屍ニ損折アリテ其髓甚ダ起ラスシテ好肉ノ湯潑ヲ受ルト全シカラス若シ死後ニ係ル者ハ肉色白クシテ爛ル、コトナク又起起セス

〔檢視心得〕

第八節 毒死 狗傷死 蝮毒死

第四十九條 毒死ノ屍ハ其證一ナラス或ハ唇破裂シ舌爛レ口肉紫色ニシテ兩眼開キ沿身黒色ニシテ腫脹シ或ハ口鼻目ヨリ紫黒色ノ血ヲ出スアリ指甲黒色ニシテ皮肉破レタルアリ又唇縮ミ眼睛壞裂シ舌上ニ小瘡ヲ生シテ破ル、コアリ遍身コ惡瘡ヲ生シ腹腫レ糞門綻破シ腎囊腫大ナル等皆中毒ノ證ナリ

第五十條 死後ニ毒藥ヲ屍口ニ灌入シテ毒死ヲ裝スルモノハ皮肉骨爪皆黃色ニシテ青黒色ナリ

第五十一條 食物及ヒ金石藥ノ毒ニ中テ死スル者ハ屍ニ赤腫ノ處アリ拳打ノ痕ノ如ク或ハ大ナル青黒痕ヲ成シ或ハ皮肉破裂シ舌ト糞門ト皆露レ或ハ鼻口中ニ血アリ指甲青色ニシテ肉縫少シク血出ツ

第五十二條 人癩狗ニ傷ツケラル、キハ必ス疵痕アリ腹硬脹シ溺出ツ其毒ノ發スルキハ風寒ニ感スルノ狀ノ如ク風ヲ畏ル、コ甚シク時々狗聲ヲ作シ人及ヒ衣服等ヲ咬ント欲ス若シ小腹膨脹シテ溺出難キハ其毒最モ厲シ初咬ハ猶ホ拯フヘシ毒已ニ發スルモノハ治セズ第五十三條 蝮毒死ノモノハ傷所ニ微ク齒損ノ黒痕アリテ四邊青腫シ黃水出ツ若シ其毒四肢ニ及フキハ遍身光腫シ面黒色ナリ

第九節 車輪撥死馬踏死牛傷死壓死悶死

第五十四條 車輪ニ撥着セラレテ直ニ死スル者ハ肉色微黃ニシテ口眼開キ手微シク拳ス

第五十五條 馬ニ踏レテ死スル者ハ肉色微黃ニシテ手散シ髮幔セス鼻口中ニ血アリ蹄ヲ受ル處黒色ナリ若シ要書ニアルハ骨折レ腸臟出ツ

第五十六條 牛ノ角ニテ傷ツケラル、者ハ皮肉破レ赤色ニシテ脹起セス傷所多クハ小腹ノ邊ニアルナリ

第五十七條 壓死ノ屍ハ舌出テ眼子突出シ耳目鼻口ヨリ血出テ兩手微シク握リ沿身遊紫黯色ニシテ傷所ニ血滲赤腫アリ皮肉ノ破ル所ハ其四畔腫起シ或ハ筋骨折損ス若シ死後ニ係ルキハ筋骨折損スルモ舌出ル等ノ狀ナシ

第五十八條 硬物ニテ助後ヲ癩疔セラレテ死スル者ハ傷所紫赤ニシテ皮破ル、コナシト雖モ筋骨必ス折損ス

第五十九條 衣服或ハ濕紙ニテ鼻口ヲ摺閉セラレ悶絶シテ死スル者ハ舌破レ項肉硬ク腹乾脹ス

第六十條 外物ニテ搭閉セシ者ハ眼睛出テ鼻口ニ清血ヲ流シ滿面赤黒色ノ血痕アリ糞門出テ便溺衣ヲ汚ス

〔検視心得〕

第六十一條 飲酒シテ熟睡スルキ屍褥ニテ捲束シ倒ニセラル、キハ片時ニシテ悶死ス如此ハ必ス屍ニ血出ル等ノ狀ナシト雖モ兩肋心胸ノ前堅ク腫ル、ナリ

第十節 餓死 醉飽死 凍死 中暑死

第六十二條 餓死ノ屍ハ 肚腹低塌シ 渾身黒シ 瘦セ 堅硬ニシテ 眼閉キ 唇開キ 齒緊切 四肢伸フ

第六十三條 醉飽死ノ屍ハ 俱ニ 傷痕アリ 惟テ 肚腹膨脹シテ 之レヲ 拍テ ハ響アリ 燒酎ニ 醉テ

死スル者ハ 齒牙動搖シ 屍軟弱ニシテ 鼻口間ニ 血水流出ス

第六十四條 人 醉飽シテ 高所ニ 跳リ 或ハ 重物ヲ 捨ル 等大ニ カヲ 用ユルキハ 肉損シテ 死スル

トアリ 其屍 鼻口 糞門ニ 食物ヲ 泄出ス 或ハ 血ヲ 帶ヒタル 糞ヲ 漏ス トアリ

第六十五條 凍死ノ者ハ 沿身 粟起シ 面色 痲黃ニシテ 項縮リ 齒牙 硬ク 兩手 胸前ヲ 抱ヘ 口ニ 涎

沫ヲ 出ス

第六十六條 凍死ノ屍ハ 紫赤色ニシテ 眼口開キ 紫肝出テ 唇微綻シ 手拳セス

第六十七條 中暑死ノ屍ハ 眼閉合シ 舌出テス 面色 黃白ニシテ 鼻孔及ヒ 糞門ニ 血ノ 出ル トアリ

第十一節 驚死 卒中死 鍼灸死 墮胎死

第六十八條 驚怖シテ 死スル者ハ 目瞪口呆開キ 兩手 舒展シ 死後 尙ホ 怕怖ノ 狀ヲ 存ス

第六十九條 卒中死ノ屍ハ 眼開キ 睛白シ 口齒閉キ 牙緊切シ 口眼喎斜ニシテ 口ノ 兩角ニ 涎沫ヲ 出シ 手脚拳曲ス

第七十條 鍼灸死ノ屍ハ 其穴道ニ 當ルト 否トナ 勘檢シ 以テ 致命ノ 原由ヲ 明コスヘシ

第七十一條 墮胎兒ハ 死シテ 後ニ 出ルハ 胞衣ノ 色紫黒ナリ 分娩ノ 後ニ 在テ 死スルモノハ 其

屍薄赤ニシテ 胞衣ノ 色白シ

(太)第十四號 明治十三年二月廿五日達

明治十二年三月第十二號達在之通改正候條此旨相達候事

官廳内并ニ 官有ノ 工場及ヒ 船艦等ニテ 變死ニ 係ル者及ヒ 重傷死ニ 至ル者ハ 近傍ノ 警察署ヘ 報知シ 檢視ヲ 受シヘシ

但 軍人軍屬ニシテ 陸海軍官限リ 處分ナリシ 警察官ノ 檢視ヲ 要セサル 分及ヒ 遠洋航海中ニ 係ル者ハ 此限ニアラス

○第廿二號 明治十年二月廿二日布告

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由確知シ難キ旨醫師申立ルルハ檢事^{檢事派出ナキ地方}ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルヲ得

○縊者療法

第一項

縊者ハ神速ニ其縊ヲ解クヲ以テ至要トス且ツ其縊ヲ解クニ當テ縊者或ハ地上ニ落テ爲コ損傷ヲ受クルヲ以テ亦之ヲ防カサルヲ得ス故ニ救者一手ヲ以テ縊者ヲ抱キ一手ヲ以テ其縊ヲ解クヘシ若シ二人相會スルハ一人ハ兩手ヲ以テ縊者ヲ抱キ一人ハ其縊ヲ解クヲ法トス

第二項 第一圖第二圖見合スヘシ

縊者頸ニ繩或ハ布ヲ以テ懸ルルハ先之ヲ解キ放テ若シ其衣服ノ窄クシテ身ヲ緊紮セシナレハ亦皆之ヲ取除クヘシ

第三項

縊者ヲシテ外氣中或ハ空氣流通ノ空中ニ坐セシメ然後始メテ回生ノ術ヲ施スヘシ且ツ其術ヲ施スニ當テハ必用ノ人ノ外群集ヲ禁スヘシ

第四項

其術ヲ施スヤ鳥羽或ハ卷紙ヲ以テ鼻中及ヒ口中ノ後部ヲ撫ツヘシ安母尼亞精藥^{イソアミン}アラハ之ヲ鼻下ニ塗リ以テ其氣ヲ飄カシメ小腿及ヒ胸部ニハ芥子泥ヲ貼付スヘシ若シ急ニシテ之ヲ供スルコト時間ナキハ刷毛ヲ以テ跖ヲ摩シ且足部ヲ摩擦シ之ヲシテ暖ナラシムヘシ 第三圖見合スヘシ

第五項

醫員其場ニ在テハ即チ刺絡ヲ行フヘシ

第六項

右之療法ヲ施シ尙ホ呼吸セサルハ縊者ヲ左右ニ動シ當ニ溺者ニ施ス所ノ如クスヘシ蓋シ縊者ニ於テモ亦此術ニ由テ空氣ヲ誘引スルヲ以テナリ 第四圖見合スヘシ

第七項

縊者生ニ復シ吸飲スルヲ得ハ少シク茶或ハ酒ヲ飲マシムヘシ而シテ床ニ臥セ且ツ頭ヲ高クシテ開臥セシム (以下圖式略ス)

○溺者療法

溺者水中ヨリ取上ラレ未タ直ニ死相ヲ表ハサ、ルルハ左ノ如ク處置スヘシ 第一項

〔縊者療法〕〔溺者療法〕

口内及ヒ鼻孔ハ中指或ハ卷束セシ紙片ヲ以カメテ之ヲ清潔ニスヘシ如何トナレハ溺者ノ鼻
孔口中ハ多ク泥石泡砂等ニテ呼吸ヲ障碍スルコトアレハナリ 第一圖見合スヘシ

第二項

其體ハ頭部ヲ足部ヨリ稍低ク伏臥セシメ口鼻ヲ地下ニ接近セサル様額下ニ枕ヲ置クヘシ左
スレハ口内鼻孔ニ侵入セル水分ヲ吐出スルヲ得ヘシ其體ヲ板上ニ置キ足部ノ板端ヲ高クス
ヘキハ即チ以テ上ノ諸件ヲ便易ニスルヲ得

如此處置スルハ只二三瞬時間ヲ經ルヲ要ス 第二圖見合スヘシ

第三項

次ニ溺者ノ頭部ヲ高クシ仰臥セシメ近傍ノ屋室ニ運ヒ第四項以下掲載スル順序ニ從ヒ其治
療ヲ施スヘシ然レモ若シ時刻ヲ移ス可ラサルキハ速ニ屋外ニ於テ救法ヲ施スヘシ 第三圖
見合スヘシ

第四項

溺者ノ濕衣ハカメテ速ニ脱シ乾布ヲ以テ全體ヲ摩擦スヘシ夏時ニ在テハ其全體ヲ日光ニ照
シテ之ヲ煖ム然レモ頭部ハ日光ニ照ス可カラズ 第四圖見合スヘシ

第五項

同時介抱人ハ其患者ノ口ヲ開キ鳥羽或ハ卷束紙片ヲ以テ口内ノ後部ヲ撫テ而シテ摩擦セシ
胸部及ヒ面部上ニ冷水ヲ撒布シ直チニ復タ乾布ヲ用テ摩擦スヘシ 第五圖見合スヘシ

第六項

若シ此法ヲ用ヒテ猶呼吸セサレハ更ニ左ノ如ク處置スヘシ復タ其體ヲ伏臥セシメ此度ハ頭
部ヲ足部ヨリ高クシ胸下ニ卷束セル綿布或ハ衣類ヲ置キ而シテ溺者ノ腕ヲ以テ額下頭部ヲ
支柱スル様安置シ介抱人ハ手ヲ以テ其體ヲ側方ニ向ケ復タ直チニ之ヲ伏臥セシム斯ノ如ク
一分時間凡ソ十五度左右兩側ニ回轉スヘシ 第六圖第七圖第
八圖見合スヘシ

第七項

若シ如此スルニ三分時間ニシテ猶呼吸ヲナサハルニ於テハ次ノ術ヲ行フヘシ復タ再ヒ其體
ヲ仰伏シ其便宜ニ應シ毛布或ハ衣類ノ如キ軟カナル物ヲ以テ枕トス一人ノ介抱者ハ其口ヲ
開キ深ク指ヲ口内ニ入レ其舌ヲ引出シ手巾ヲ以テ舌ノ先キヲ固ク握リ又一人ノ介抱者ハ溺
者ノ兩手ノ二ノ腕ヲ握リ之レヲ頭ノ方ニ引上ケ復タ之ヲ體ノ側方ニ引下ケ且押付クヘシ之
ヲ押付ル内一人ノ介抱者ハ其胃部ヲ壓スヘシ其壓様ハ腹ノ臟腑ヲ胸ノ方ニ推シ揚クルカ如
ク次テ復タ直チニ其腹ヲ壓ステ止メ再ヒ其ノ二ノ腕ヲ頭ノ方ニ引上ケ復タ體ノ側方ニ引下
ケ之レヲ押付ケ且前ノ如ク其腹ヲ壓ス可シ斯ノ如クシテ呼吸ヲ生スル迄一分時間凡十回ニ

〔溺者療法〕

至ルヘシ此仕方ハ畢竟生タル者ノ呼吸スルカ如ク胸郭ヲ擴張縮少セシメ呼吸ヲ誘起スルノ方法ナリ 第九圖第十圖 見合スヘシ

第八項

溺者呼吸スルヲ始ムレハ直チニ火ヲ煖メタル布ヲ以テ脚部及胃部ヲ温ムヘシ而シテ其吸飲スルヲ得ル者ニ在テハ少シク茶或ハ酒ヲ與フヘシ

第九項

其呼吸ヲ始メシ者再ヒ之ヲ閉止スルヲ往々アリ然ルキハ直チニ復其救助術ヲ施スヘシ

第十項

此救助術ハ溺者ノ呼吸ヲ發スル迄ニ施スヲ要ス其溺者ノ身體蒼白寒冷ニシテ死相ヲ現スルニ非レハ數時間ニ至ルモ決シテ救助術ヲ止ム可ラス

第十一項

其救助術ヲ始行スルニ當リ直チニ醫師ニ報告スヘシ

第十二項

其救助術ハ窄小密閉ノ室ニ於テ施スヘカラス又多人ノ群集スルハ害アルヲ以テ其施術ニ關シ必用ノ人員ノミヲ現在セシムルヲ要ス(以下圖式略ス)

○巡查懲罰例

(丙)乙第九十二號 明治九年 八月五日

巡查懲罰例別紙ノ通改正候條此旨相達候事

第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審案シ俸給一ヶ月分百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム

第二條 凡犯情ノ職ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス

第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ルモノハ追徴スルヲ免ス

第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム

第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

○巡查帶劍心得

(太)第六十三號 明治十五年十二月 二日達

自今巡查ニ帶劍セシムルヲ得ヘシ此旨相達候事

(丙)乙第七十一號 明治十五年十二月 廿二日達

今般第六十三號ヲ以テ巡查ニ帶劍セシムル儀公達相成候ニ付テハ左ノ二項可心得此旨相達候事

但調製費用ハ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

一 劍ハ日本刀ニシテ製作及ヒ革帶ハ圖ノ如シ (圖式略ス)

但從前各署ニ備置ク洋刀ノ分モ當分取雜セ帶用シ苦シカラス

一 帶劍者ハ明治八年第廿九號公達行政警察規則第四章十五條ノ旨趣ニ基キ尙ホ一層慎重
シ兇賊逮捕ノ際ト雖モ不得止場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得ス

○巡查拔劍制限

(丙)乙第三號 明治十七年一月
廿一日達

明治十五年當省乙第七十一號ヲ以テ巡查帶劍者不得止場合ニ非レハ拔劍スルヲ得サル旨相
達置候處尙ホ左ノ各條之通可相心得此旨更ニ相達候事

但第一條ノ場合ニ非スシテ傷害スルニ於テハ假令過誤ニ出ルモ都テ法衙ノ處分ニ付スヘ
シ

第一條 巡查ハ左ノ場合ノ外拔劍スルヲ得ス

- 一 兇器ヲ持シ人ノ身體財產ニ對シ暴行ヲ爲シ拔劍スルニ非サレハ保護スルニ術ナキハ
- 一 暴行人兇器ヲ持シ拔劍スルニ非サレハ保護スルニ術ナキハ
- 一 犯罪人逮捕ノキ又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劍スルニ非サレハ防禦ス

ルニ術ナキハ

第二條 前各項不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ兇人畏服ノ模樣アルニ於テハ穩ニ取押フヘ
シ

第三條 拔劍スト雖モ關係ナキ者ヲ負傷セサル様深ク注意ス可シ

第四條 拔劍シタルハ兇人ヲ傷スルト否トニ拘ハラズ其景況ヲ速ニ所屬長ニ具申スヘシ

○巡查賞與規則

第百號 明治七年七月
廿九日達

- 一 拒捕ノ賊ヲ獲ル者 金十圓以下一賊ヲ獲ル
 - 一 貨幣贗造ノ者ヲ獲ル者 一 放火或ハ人殺ノ者ヲ獲ル者
 - 一 強盜ヲ獲ル者 金五圓以下一賊ヲ獲ル
 - 一 危難ニ臨ンテ人命ヲ救援スル等其他職務上ニ付功勞アル者
 - 一 金五圓以下
 - 一 強盜竊盜其他兇徒探索方及ヒ竊盜逮捕ニ格別盡力セシ者
 - 一 金五圓以下
- 右ノ高キ限リトシ實際ノ難易ニ依リ功勞ノ輕重ヲ審定シ等差ヲ分ケ遞減賞與スヘシ若シ本

〔巡查拔劍制限〕〔巡查賞與規則〕

明治八年百
八十二號ヲ
以テ巡卒ヲ
巡查ト改稱

人死スル時ハ追賞トシテ其父母妻子或ハ親族ニ給ス但シ披群ノ功勞アリテ此限ヲ越ル者ハ
伺出ヘシ

明治八年七
月第百二十
八號

○巡查死傷ノ者吊祭扶助療治料明治八年一月十日第三號達

一 明治六年十一月第三百九十二號達書中選卒番人死傷ノ者扶助并ニ追賞規則左之通改正候
條本年二月一日ヨリ施行可致

一 重傷死ニ至ル者

吊祭料三十圓

但父母妻子親戚等ナキ者ハ同僚ニ給ノ吊祭セシム

遺族扶助金百圓

但父母妻子等遺留ノ家族ニ給ス

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 一等傷痕 終身不具ニシテ自用ヲ辨スル不能者

扶助金百圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 二等傷痕 同上其次ナル者

扶助金七十圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 三等傷痕 同上稍其次ナル者

扶助金五十圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

一 四等傷痕 不具ニ至ルト雖モ用便ニ差支ナキ者

扶助金五十圓

療治料

但疵ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之レヲ給シ別ニ扶助金ヲ給セス

右ハ其職務上ノ事ニ付テ傷痕ヲ受シ者ノ例トス

●大分縣ヨリ療治料支給方内務省へ伺明治十八年五月廿二日

〔○巡查吊祭扶助療治料並追賞〕〔巡查賞與規則伺指令〕

警部警部補ニシテ貨幣贖造放火人殺強盜其他ノ行兇者逮捕ニ際シ非常ニ盡力シ遂ニ負傷治
十七年第三號公達官吏恩セシモノアルキハ明治八年第三號公達吊祭扶助療治料規則ニ照
給令ニ該當セサルモノ

指令 明治十八年
八月三十一日

同ノ趣警察官職務上負傷シタル者ハ醫員ノ申立書ニ由リ傷痕ノ輕重療養ノ事體ニ從ヒ療
治料實費ヲ以テ警部給與ヨリ支給スヘキ事

但施行濟ノ上ハ明治十七年當省乙第二十二號達ニ據リ届出ヘシ

(内)乙第十七號 明治十一年
二月廿八日達

一般ノ人民時機不得已場合ニ於テ身ノ危難ヲ不顧巡查同様ノ働ナシ死傷ノ者吊祭及扶助
料給與方ニ付明治八年太政官第百八十六號御達ノ趣有之候處自家ノ賊難ニ罹リ死傷スル者
ハ給與ノ限ニ非ス項但特ニ慰諒ノ事情アツテ救恤セサルヲ得サル者ハ其都度事實具狀可伺
出事

(内)乙第百五十四號 明治八年十一月
十九日達

警察上ニ付賞與并吊祭扶助療治料等成規ニ照シ取計候分(九年乙第二十八號)自今施行ノ月
日ヲ記載シ略可届出但巡查ト一般人民ト區別候儀ハ本年乙第百二十四號達ノ通可心得事

(内)乙第廿八號 明治九年三月
十三日達

明治八年乙第百五十四號ヲ以テ警察上賞與并吊祭扶助療治料等成規ニ照ラシ取計候分其時
々可届出云々相達置候所調理上都令有之ニ付自今ハ一ヶ月分取繼施行濟ノ月日ヲ記載シ翌
月十五日迄ニ可届出

(内)乙第六十一號 明治十年七月
五日達

本年二月第二十號ヲ以テ警察上賞與届出方ノ儀相達置候處詮議ノ次第有之取消候條自今都
テ昨九年乙第廿八號達ノ通可相心得事

(内)第六十七號 明治十五年
一月十二日達

一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條此旨
相達候事

吊祭扶助療治料

一吊祭料 重傷死ニ至ル者ハ金三十拾圓ヲ給ス親屬故舊ナキモノハ尸長役場ニ付シ便宜處分
セム○一遺族扶助料 父母妻子若クハ死去ニ依リ從來生計ヲナセシモノハ金五十拾圓ヨリ
少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス○一傷痕扶助料 一等傷終身不具トナリ自用ハ金六十圓
ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス 二等傷終身不具トナレモハ金拾圓ヨリ少カラス五

〔運賃賞與規則伺指令〕

拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス○一療治料 傷痕ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

○第四十一號 明治十六年一月

巡查看守給助例別紙之通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨相達候事但實施ノ府縣ハ八年(二月)第三號達并九年(八月)第八十號達別表中免職歸國旅費ハ相慶候儀ト心得ヘシ

○巡查看守給助例

第一條 給助ハ退職給助傷痕給助死亡救助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ○一、退職給助 勤績(巡查ヨリ看守ニ看守ヨリ巡查ニ轉スルモ總テ勤績トス)滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス○二、傷痕給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス○三、死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原ノ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス○四、療治料 職務ノ爲メ負傷シ若シハ傳染ニ罹ル者ニ之ヲ給ス○五、祭祀料 奉職中死

第三條 退職給助ノ額○一、勤績滿五年ノ者ハ一時金二十圓ヨリ少カラス金三十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス金五圓ヨリ多カラサル

ル額ヲ増給ス○二、勤績十年ノ者ハ年金拾五圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少ナカラス一圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第四條 傷痕給助ノ額○一、一等傷痕終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者ハ年金三十圓ヨリ少カラス四十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス○二、二等傷痕(終身不具トナリ自用ヲ辨シ得ル者)ハ年金二十圓ヨリ少カラス三十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額○一、寡婦又ハ相續孤兒アル時ハ年金三十圓ヨリ少カラス五十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス(但寡婦アレハ孤兒ニ給セス)○二、寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母父母又ハ廿歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルキハ一時金五十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス○三、相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第六條 療治料ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條 祭祀料○一、奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金十圓ヨリ少カラス十五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ

増給ス〇二、職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金五十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多
カラサル額ヲ給ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス〇一、公權ヲ剝奪セラレタル者〇二、懲罰ニ
ヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ係ル者ハ其時間給助ヲ停止ス〇一、俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者〇二、
公權ヲ停止セラレタル者〇三、失踪シタル者〇四、許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸
朝セサル者

〇第四十二號 明治十六年一月 遼

巡查看守給助例施行ノ期ニ際シ現在職滿二年以上五年未滿ノ者引續キ五年未滿(奉職ノ日
ヨリ算ス)ニシテ退職スルキハ給助例施行ノ日ヲ限界トシ勤績年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ依
リ當時ノ月俸額ヲ以テ退職ノ際一時慰勞金ヲ支給スヘシ此旨相達候事

〇第八十號 明治九年八月十日遼

明治十年四月第四十號
明治十四年四月第廿七號

明治八年十一月第百九十五號達巡査旅費定則及ヒ本年一月第七號二月第二十一號達増補ノ
分共別表ノ通改正候條來ル九月一日ヨリ施行可致此旨相達候事但地方ノ見込ニテ以テ適宜
減省候儀ハ不苦候事

巡査旅費日當定則表

並旅行	赴任旅行	晝夜急行	滯留	官船渡海	同賄料
一圓廿五錢	一圓五十錢	壹圓九十錢	三拾五錢	六十錢	五十錢
府縣管内 並旅行	同滯留	召募免職 歸國	持區內巡回 一泊旅籠料	同一晝一賄 料	臨時辨當料
八拾錢	三拾錢	五拾錢	拾五錢	三錢五厘迄	三錢五厘
東京廣瀨間片道 大坂神戸間片道 大坂神戸間片道 大坂神戸間片道	全赴任瀛車 賃	京都片道 大坂間瀛車賃	全赴任瀛車 賃	京都間赴任 神戶間瀛車賃	二圓四十六 錢
八拾錢	壹圓八錢	壹圓十一錢	壹圓四十七 錢		

(内) 達滯外 明治十八年七月三十日

巡查看守休暇概則左ノ通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届出此旨相達候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候事

〇巡查看守休暇概則

第一條 巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許サ、ルヘキモノナレバ其勤務

〔巡査旅費定則〕〔巡查看守休暇概則〕

上差支ナキニ於テハ皆勤ノ者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與ルコトヲ得
第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ

休暇日數

一ヶ年間皆勤ノ者 三週間 半ヶ年間皆勤ノ者 壹週間

第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス

第四條 休暇日數ハ數年ニ滿算シテ併與スルヲ得

(内)達番外 明治十八年七月三十日

看守休暇概則左之通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届出此旨相達候事

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候事

(看守休暇概則ハ前項番外達巡查看守休暇概則ニ同シ)

●東京集治監ヨリ看守休暇概則ノ儀ニ付内務省へ伺 明治十八年八月一日

本年七月三十日本省番外ヲ以テ看守休暇概則御達相成候ニ付テハ其細目順序取調可及御届ノ處該則第四條休暇日數通算方ノ儀新拜命ノ者ハ其當日ヨリ欠勤ノ者ハ出勤ノ日ヨリ起算シ定則ノ休暇日數ヲ與フヘキヤ將テ新舊ノ者ヲ問ハス計算方ハ其月ノ十五日前後ヲ以テ區分致シ可然哉右兩條疑義ヲ生シ候ニ付此段相伺候也

指令 明治十八年八月十一日

書面前段伺ノ通

●宮城集治監ヨリ看守休暇ノ儀ニ付内務省へ伺 明治十八年八月四日

看守ノ休暇豫備軍ニテ點呼演習ノ日ハ欠勤日數ニ算入セスシテヨキヤ

指令 明治十八年八月十五日

看守休暇日數計算方ニ付本月四日電報ヲ以テ伺出ノ處豫備後備軍ニテ點呼召集ニ應シ出勤セサル日數ハ勤務及ヒ欠勤ノ日數ニ算入セサル儀ト心得ヘシ此旨及指令候事

●愛媛縣ヨリ巡查看守休暇概則ノ儀ニ付内務省へ伺 明治十八年八月十五日

一 本年御省番外ヲ以テ達セラレタル休暇概則第壹條云々皆勤ノ者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與フルヲ得ト明記アリ之ニ由テ之ヲ觀レハ一日欠勤アレハ無論休暇ハ消滅スヘシ夫レ如斯一日ノ欠勤ヲ以テ忽チ休暇消滅スルキハ平素致々勵精ノ銳氣ヲ挫キ却テ怠心ヲ生セシムルノ嫌ナシトセス仍テ半ヶ年間三日迄欠勤アル者ハ欠勤日數ヲ遞減シ殘餘日數休暇ヲ與ヘ可然哉

一 傳染病流行ニ付職務ヲ行フ際該病ニ感染治療ノ爲メ欠勤シ及家族等傳染病ニ罹リ直接看護シタルヲ以テ他ニ傳染ヲ憂慮シ豫防ノ爲メ欠勤シ又ハ父母ノ看護引籠并忌引欠勤日數ハ

〔巡查看守休暇概則伺指令〕

概則第三條ニ準シ缺勤日數ニ算入セサル儀ト心得可然哉

一女監取締教誨師授業手押丁ハ看守休暇ニ準據シ半年間皆勤ノ者ハ五日壹ケ年間皆勤ノ者ハ十五日休暇ヲ與ヘ不苦哉

指令 明治十八年九月二日

第一條 聞届難シ

第二條 傳染病流行ニ際シ職務上該患者ニ直接シ之レカ爲メ感染シタル者治療中ノ日數ハ概則第三條職務上負傷者ノ例ニ準シ取扱フヘシ 但忌引日數ハ勤務又ハ缺勤ノ日數ニ算入セス其他ハ缺勤日數ニ算入スル儀ト心得ヘシ

第三條 女監取締等ノ者ハ看守休暇ニ準據スル限ニアラス

○遺失物取扱規則

明治九年四月十九日 第五十六號布告

第一條 凡遺失ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラサル者ヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルコ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルコ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ル官之ヲ榜示シ一年内其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失物ハ其遺失スル物品ノ模稜員數并ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速ニ官ニ届出可シ 但得者ヨリ其返還ヲ得ルキモ亦更ニ其旨ヲ届出可シ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少ナカラス二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價額ヲ争フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルコ物品盜贓ニ係ル者ハ直ニ官ニ送ル可シ官之ヲ其主ニ還シ止メ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ル者ハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサル者ハ地主ノ所有ニ皈スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルキハ之ヲ地主ト中分セシム但盜贓ニ係ルモノハ此限ニ非ス

第七條 凡遺失物ヲ得ルコ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照シテ處分ス

〔遺失物取扱規則〕

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラザレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

(内)乙第九十七號 明治九年八月廿四日

本年四月第五十六號公布遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品ノ儀ハ之ヲ公賣シ其金額每六ヶ月分七月ヨリ十二月迄取纏メ明細書相添大藏省ニ納付可致此旨相達候事

但第十二條應禁ノモノハ此限ニアラス且本文ノ通り納付候ハ其段當省ニ可届出事

(内)甲第廿號 明治十年九月廿七日

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則第六條埋藏物掘得ルモノ處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ニ届出檢査ヲ可受其品ニ依リ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價額ノ半高ヲ發掘人ニ下附シ該物品ハ永ク博物館ニ陳列可致候條此旨布達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通可取計候事

山梨縣伺 明治九年四月廿七日

遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノ其費用及ヒ報勞金ハ定額常費金ノ内ヨリ仕拂可然哉指令 伺之通 明治九年六月廿七日

●千葉縣ヨリ彈藥類ヲ拾得ノ儀ニ付内務省ニ伺 明治十年一月十一日

遺失物ヲ得ルニ揭示限内其主ナキハ一年間官ニ領置スヘキノ處彈藥ノ如キハ現物ノ儘領置候テハ火氣ニ觸レサル様注意スヘキハ勿論ニ候得共別ニ火藥庫ノ設無之ニ付不得止他物品ト雜置候様相成自然變災ヲ生スルモ難計候條遺失物取扱規則第七條耐久シ難キ物品同様公賣ノ上代價ヲ以テ領置致度此段相伺候也 明治十年一月十一日

〔遺失物官沒品取扱方全古代ノ沿革ヲ徵スル物品届出方〕

指令書而伺之通

明治十年十月廿一日

○集會條例

明治十二年四月五日布告

明治十五年六月廿七號

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會二日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合スル者ヲ併稱ス)スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員ノ出入アリタルモ同様タルヘシ此届出ヲ爲スコ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリヒ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルモハ尙ホ第一條ノ手續ヲ爲スコ可シ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ二日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルモハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖ヒ之ヲ變更スルモハ第一條ノ手續ヲ爲スコ可シ

第四條 管轄警察官ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルモハ之ヲ

認可セズ又ハ認可スルノ後ト雖ヒ之ヲ取消スコトアル可シ

第五條 警察署ヨリ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコトアル可シ

警察官會場ニ入ルモ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルモハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリヒ之ニ答辨ス可シ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルモ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルモ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害ナリト認ムルモ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルモハ全會ヲ解散セシム可シ

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルモ地方長官(東京ハ警視長官)ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシムルコトヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内内國內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發

シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連絡通信スルヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金若ク

ハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者

ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタルモノモ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサル

キ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルキ

ハ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサル

キ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮

ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ偽答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓

以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙ホ退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ

罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金

若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其
制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金

若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ

脅迫スル者及ヒ罪再犯ヒ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁

獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安

ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルキハ之ニ監臨スルヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルキハ第十

二條ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルヲアルキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルキハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルキハ之ヲ禁止

スルヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハヌ又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓

以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

〔集會條例〕

○第三號 明治十三年四月六日布告

今般第十二號布告ノ通り集會條例被定候ニ付テハ從前集會結社候者モ右條例ニ依リ更ニ届出ヘシ

(陸)乙第三十二號 明治十三年五月五日達

今般集會條例御發行相成候ニ付テハ陸軍々人并ニ諸生徒ニシテ右條例ノ制限ヲ犯ス者ハ總テ地方裁判所ノ處分ニ屬スル儀ト可相心得事

○無號 明治十二年五月九日達

凡ソ官吏タル者其職務ニ係ル外政談講學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談演說ノ席ヲ開ク等不都合ノ儀ニ付右等ノ儀無之様各長官ニ於テ取締可致事

(丙)番外 明治十三年五月六日達

這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官ニ於テ處分セシ分並罰料ニ處セラレタル分共其時々事由詳細當省ヘ可届出事

○監臨官調書體 明治十六年二月廿六日(司)第一〇四八號達

本職某所警察署ノ命ニ依リ正當ノ職權ヲ帶シ本日即明治何年何月何日午後何時何所ニ於テ開會スル演說會ニ監臨セリ

傍聽人ハ凡ソ何百人以上ト見受ケタリ然レモ此人數ハ幾人ト確言スル能ハス」演說中會員某ナルモノ演說スル所政談ニ涉リ左ニ記載スル旨趣ヲ以テ演說セリ(左ニ記載スル所或ハ如)此演說タルヤ明治十五年六月二日公布集會條例第六條ニ抵觸セシモノニシテ即明治十三年四月公布ノ條例第十條ニ依リ處分スルモノタルヲ信ス」依テ直ニ會場ノ解散ヲ命シ爰ニ前條法律ノ處分ヲ求ムヘキ爲メ右某ヲ引致セリ該現行犯タルヤ本職等公衆ノ目前ニアリテ(此語ヲ入ル)隨意タル(シ)正當ノ職權ヲ帶シ視聽スル所ナルヲ以テ該調書ハ法律上正當ノ効力アルハ信シテ疑ハサル所ナリ依テ調書ヲ製シ及御届候也

年月日

監臨官姓名

全

何警察署長殿

(此末ニ演說旨趣書ヲ書ス但調書中ニ記載スレハ別ニ記載スルニ及ハス)

演說主意抜抄

(此末ニ警察調書ヲ記載スベシ)

[監臨官心得]

監臨官
割印

警察署訊問調書式

千三百七十

問 姓名職業年齢其他

答

問

答 (通例ノ訊問終テ左ノ如ク令ス)

其方儀明治何年何月何日午后何時何處ニ於テ開會スル演說會ニ於テ其方カ演說スル演說ハ
政談又ハ何々ニ涉リ即集會條例第十條並ニ、、、、ニ抵觸スルヲ以テ監臨官何某ノ爲ニ
其解散ヲ命セラレ其演說ハ何々、、、、ノ主意ナリ (此時監臨官ノ主意書或ハ其調書ヲ) 是
レ監臨官ノ現場ニ在リテ視聽スル所ナルヲ以テ該調書ハ法律上甚タ有効ナルモノナリ然レ
モ若シ之ニ反對ノ證アラハ隨意ニ申立ルヲ得ヘシ (以下被告人ノ申立ヲ記ス)、、、、、
問 別ニ申立ヘキトナキヤ
答 ナシ

右監臨官ノ調書並ニ該調書ニ總テノ陳述等讀ミ聞セタル處相違無キ旨申立タリ因テ其ニ署

名捺印ス

官 姓 名

被告人 姓 名

年月日

(此末ニ檢事ニ送致スル
ルノ文ヲ記載スヘシ)

警察署

割印

被告人割印

警察署ヨリ檢事ニ送付スルヲ命スル調書式

住所身分職業

何 某

前書何某ハ明治何年何月何日何所ニ於テ演說スル處ノモノハ集會條例何條ニ抵觸スルヲ以
テ監臨官何某等ノ爲ニ其會場ノ解散ヲ命セラレ監臨官ハ法律ノ處分ヲ求ムル爲メ調書ヲ以
テ當署ニ届出タルニヨリ當署ニ於テハ正當ノ職權ヲ以テ前記ノ通被告人ニ訊問ヲ爲シタリ
抑被告人ハ現行犯者ニシテ監臨官ノ調書ハ十分ニ効力ヲ有スヘキモノタリト雖モ尙被告人ヲ
シテ隨意ニ其反證ヲ陳述セシメタルニ其陳述ハ決シテ右調書ヲ打消スヘキノ力ナキモノナ

[監臨官心得]

千三百七十一

リ打消ヘキカアリト依テ條例何條ニ據リ處分アルヘキモノトシ此調書ヲ製シ何所何裁判所
檢事ニ送付スルモノナリ但此調書ハ當署相當ノ職權ヲ以テ調成セシモノナルニヨリ相當効
力アルモノト信ス

此調書ハ被告人何某ニ讀聞ス依テ共ニ署名捺印ス

年月日

官 姓名

被告人姓名 (被告人署名捺印ヲ背セ)

何警察署長

何裁判所

檢事某殿

○第四十三號

明治十六年
六月廿一日

明治十三年第十三號ヲ以テ集會届取扱心得假定候處別冊之通改正候條此旨相達候事

○集會届取扱心得

第一條 集會條例ニ依リ集會届書ヲ受付タル警察署ハ一應其集會ノ主義ヲ聞取り且講談論
議セントスル事項ノ大意ヲ筆記セシメ其治安ニ妨害ナキ者ト認ムルキハ之ヲ認可シ而シ
テ若シ現ニ施行セラル、所ノ政治ニ相及スル主義ニ係リ治安ニ妨害アリト認ルキハ認可

セサルモノトス

第二條 前條可否共速ニ先ツ其大要ヲ摘撮シ郵便又ハ急便若クハ電報ヲ以テ通知スヘシ

第三條 條例第二條ノ結社届及社則改正等ハ其認可スヘキ者ト否トノ意見ヲ付シ一應經伺
ノ上許否スヘシ

第四條 外國人其居留地外ニ於テ條例第一二三條ノ集會結社ヲ爲スノ届ハ一切認可セサル
者トス其皇國人ト相混シ集會スル者モ全シ

第五條 第一二三届書ハ正副三通ヲ出サシメ其正書ニハ第九條ノ書式ニ依リ可否ノ文書ヲ
朱書シ且該署名捺印シ下付スルモノトス而シテ副書二通ノ内一通ハ警察本署ニ送致スヘ
シ

第六條 集會監臨ハ警部トス若シ不得止キハ警部補若クハ巡查ヲ以テスルモノトス尤演說
ノ筆記及傍聽ノ人員又ハ條例第六條ノ處分ヲ爲シタルキハ其理由ヲ詳記シ速ニ届出ベシ

第七條 條例第六條ニ依リ全會解散セシムルキハ先ツ會長社長會主等ニ其命令ヲ致スモノ
トス若會長社長會主等ノ命令ニ從ハサルキハ直ニ公力ヲ用ヒ解散セシムヘシ尤會長會主
社長等ノ内居會セサルモノアレハ現在ノ者ニ命令スルモノトス然レモ若シ以上ノ者皆現
在セサルキハ幹事會員又ハ其他ノ者ニ命令スルモノトス

[集會届取扱心得]

但散解ヲ命シタルル引續其場ニ於テ政治ニ關セサル講談論議ヲナスコト申出ルト雖也
一時現場ヲ解散セシムヘシ
第八條 前數條ノ外集會條例ニ依リ處分セシモノハ渾テ速ニ届出ヘシ
第九條 集會届書ノ指令書式左ノ如シ

認可スルルノ書式

〔朱書〕
書面届出之趣又ハ何々ノ一項認可候事

印刷年月日

何縣

何警察署

印署

認可セサルルノ書式

〔朱書〕
書面届出ノ趣認可難致候事

印刷年月日

何縣

何警察署

印署

認可取消ノ書式

何々ノ書面届出ノ趣^{全部又ハ幾部}何年何月何日ノ認可^{何々ノ項又ハ全部}取消候事

印刷年月日

何縣

何警察署

印署

○第廿二號 明治十六年六月廿九日布告

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スル所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋責付セラレタルルハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ス又之レニ屬スル禮遇特權及ヒ年金ヲ受ルコトヲ得ス

○第三十九號 明治十六年九月十三日達

本年六月第廿二號布告ノ旨ニ依リ勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續左之通相定候事

○勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタルモノトス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲戒例及免黜條例ニ依リ免官シタル者

第三項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

〔勳章年金褫奪及停止取扱手續〕

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免許狀ヲ褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル、者アルキハ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル、者アルキハ所轄長官又ハ地方長官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第五條 賞勳局總裁ハ其具狀ヲ審査シ重禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第三項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキモノハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム

第七條 勳位進級セシ者ナルキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納ス

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタル時ハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法省又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅スルカ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルキハ亦之ヲ申告スヘシ

●福井縣ヨリ勳章年金褫奪及停止取扱手續ニ付内務省ヘ伺 明治十六年十一月十五日

本年九月太政官第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續第一條第二項ニ所謂懲戒令トハ汎シ指稱セシモノニシテ單ニ官吏懲戒令ニ限ラス明治九年八月御省達乙第九十二號巡查懲罰令ノ如キモ無論該項ニ包含シタルモノニ有之候哉聊疑義ヲ生シ候ニ付爲念相伺候也 指令 伺之通 明治十七年二月四日

●陸軍省ヨリ勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付太政官ヘ伺

今般達第三十九號ヲ以テ勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續御達相成候處其以前ニ於テ輕重禁錮ノ刑ヲ受ケ候者有之右ハ本年第廿二號御布告後ニ係ルト雖モ第三十九號御達以前ナルヲ以テ勿論該手續ニ準據スヘカラサル儀ト相心得可然哉此段相伺候也 指令 明治十六年十月廿四日

伺ノ趣本年第二十二號布告發布後ハ第三十九號達ニ據リ處分スル儀ト可相心得事 (可)丁第四號 明治十八年二月六日

〔勳章年金褫奪及停止取扱手續伺指令〕〔帶勤者民事上喚問取扱方〕

民事上帶勳有位者喚問取扱方ノ儀ニ付甲號ノ通太政官へ相伺候處乙號ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

甲號 民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付伺

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付テハ未タ一定ノ法規無之候然ルニ有位者喚問ノ儀ハ既ニ奏請ヲ經テ喚問取扱來候先例モ有之帶勳者ニ至テハ未タ先例無之候得共彼此同一ノ取扱振ニ可相成ハ勿論ノ儀ト存候而シテ右喚問ヲ要候時ハ本年三月廿一日付伺勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀ニ對シ御裁令ノ趣モ有之依テ民事ニ於テモ同様帶勳者ハ勳六等有位者ハ從六位以上ニ限リ其時々奏聞可致儀ト心得可然哉此段相伺候也

明治十六年六月四日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

乙號 伺之通 明治十八年一月廿四日

明治十五年一月十四日

○第八十一號 明治十四年十二月廿八日布告

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法比照スルニハ左ノ例ニ從フ可シ

第一條 新舊法比照左ノ如シ

新法

舊法

新法

舊法

一死刑

斬絞

二無期徒刑

懲役終身

三有期徒刑

四無期徒刑

禁獄終身

五有期流刑

六重懲役

懲役十年

七輕懲役

懲役七年

八重禁獄

禁獄十年

九輕禁獄

禁獄七年

十重禁錮

懲役十一年

十一輕禁錮

禁獄銀錮十一日

十二拘留

以上五年以下

十三罰金

懲役禁獄銀錮拘留十日以下

十四科料

贖罪收賸罰金科料二圓以上

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス

舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルコトヲ得ス

舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ

舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ類

〔新舊法比照〕

- 第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス
- 第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キニ過クルヲ得ス
- 第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス
- 第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ
- 舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ
- 第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス
- 第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セズ但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ
- 第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス
- 第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス
- 第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス
- 第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

○囚人護送手續 明治十五年二月一日 第十號達

- 第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監ヘ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ褫傳護送スヘシ
- 但一府縣管内本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノハ本文ニ準スルヲ得
- 第二條 新クニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脱走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ
- 但入監后糾問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在ラス
- 第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署ヘ遞報スヘシ
- 第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警吏及ヒ繩取ノ人員ハ適宜タルヘシ
- 但便利海路ニヨルトキハ適宜囚人ヲ増加スルヲ得
- 第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテテ限トス
- 第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及ヒ發日時ヲ記載シ置クヘシ

〔囚人護送手續〕

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルキハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締チナスヘシ

第八條 護送途中囚人病發スルキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スルキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者ハ之ニ下付ス醫師ニ死去證書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衙署ニ遞付シ仍ホ發出衙署ニ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出衙署及ヒ送達スヘキ衙署ニ報告スヘシ

但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタメ他囚護送ヲ遅緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ニ助力ヲ請フコトヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

但繩取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中コテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲クル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲ク各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ
第十三條 護送囚人死歿シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ニ足ルモノアル者及ヒ軍人軍屬ノ埋

葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限リニアラス尤モ其費額ハ都テ拾圓以内タルヘシ
但軍人軍屬ノ分ハ退テ陸軍省ヨリ拂戻スヘシ

第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムルキハ一宿ニ賄臥具點燈手數料ヲ合セテ金二十五錢以下一晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

○行旅死亡人取扱規則

明治十五年九月三十日 第四十九號布告

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地ニ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戸長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長ニ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付ス可シ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス可シ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場ニ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

〔行旅死亡人取扱規則〕

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供ス可シ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ
但本籍氏名詳ナル者其家亦貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルコト於テハ地方稅雜稅收入ニ組入ル可シ

○第五十號 明治十五年九月三十日布告

明治四年四月二十三日布告脫籍無產ノ輩復籍遞送規則同年六月十七日布告行旅病人取扱規則同年十二月二十六日脫籍無產ノ徒復籍方布告并ニ十年(十二月)第九十五號達十一年(十一月)第四十七號達同年(十二月)第五十五號達ハ之ヲ廢止ス

(內)甲第廿四號 明治七年九月廿日達

自今府縣遞送人途中逃亡又ハ疾病致候者其他行旅病人倒死人變死人等ノ諸入費總テ有籍者ハ其家元ヨリ償却爲致無籍者ハ官費ニ可相立此旨布達候事
但家元ヨリ償却方其家貧窮或ハ斷滅ニテ償費相成兼候ハ、父子兄弟ノ内ヨリ可相償若父

子兄弟無之哉又ハ有之ニ貧窮等ニテ償費行届兼候ハ、其地方區内割ニ可取計其他從前布令ノ通可相心得事

(內)乙第百廿三號 明治八年九月廿五日達

昨七年七月中甲第廿四號當省布達ノ内倒死或ハ變死セシモノ若シ所持ノ遺金並ニ物品等有之候ハ、有籍者ハ其家元ニ下附シ無籍者ハ埋葬其他ノ費用ニ供セシ上尙餘贏アラハ地方廳へ爲納窮民救助或ハ病院費用等ノ内へ仕拂其旨可届出事

但物品賣拂ヒ金ニ換ヘ費用ニ充ツル如キハ同様可相心得事
(內)乙第百五十八號 明治八年十一月廿七日達

自今府縣行旅病死倒死變死人等原籍不分明ノ者埋葬其他入費官費ニ可相立分受取方中立候節別紙雛形ノ通各地方時々實地ノ費目ヲ書載シ可差出此旨相達候事
但無籍者所持ノ遺金等有之節ハ本年當省乙第百廿三號達ノ通可相心得事

雛形

何年何月何日何縣管下何國何郡何村ニ於テ^{病死又ハ變死}原籍不分明ノ^{男女並年}埋葬取片付入費區別左之通

調査主任

(行旅病人倒死人變死人諸費償却方) (全官費ニ係ラ分請求雛形)

官名 何ノ誰印

一金ノ何程 總計ヲ揭ク

内譯

名	稱	員	數	金
藥	價	何々		幾何
送夫賃	甲地ノ死人ヲ乙地へ送付ノ節	何人		
掲	示	札	一枚	
棺	桶	一箇		
埋葬人足賃		何人		
吊	料	何々		
看守人賃		何人		
蠟	燭	何挺		

薪	何把
筵竹繩等雜費ノ類	何々

但入費書ハ死者一人宛別々ニ認メ正副二通宛差出スベシ

(内)乙第七號 明治九年 一月廿二日

明治八年十一月乙第百五拾八號ヲ以テ相達候行旅病死倒死變死人等原籍不分明ノ者埋葬其
他入費ノ儀ハ只諸費ノ部目ヲ揭示候迄ノ儀ニ付右費金ハ定額常費ヲ以テ仕拂置當省へ可届
出儀ト可相心得此旨更ニ相達候事

○傳染病豫防規則 明治十三年七月九日 第三十四號布告

總則

明治十四年
十月七日追
加
全十五年九
月第四十八
號

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺病 腸室扶私 赤痢 實布埜利亞 發疹室扶私
及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ
但六病ノ外流行病アリ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施
行ス

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知ス

[傳染病豫防規則]

ルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ヒ警視本署ニ届出ヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ
第三條 地方長官ハ管内及ヒ傳染病流行ノ兆アリト認ムルハ其性状ヲ記シテ速ニ之内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但流行ノ勢盛ナルハ毎週ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

第四條 虎列刺病發疹室扶私ノ病者アルハ地方廳ニ於テ直ニ此規則ヲ施行シ他ノ四病ハ其流行ノ勢盛ナルニ及ヒ之ヲ施行スヘシ

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺赤痢發疹室扶私痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難キト認ム

ル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ

但患者治愈死亡又ハ避病院ニ入タル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病者

第九條 虎列刺病者ノ排泄及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ケナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行スルニハ井泉河流水道及ヒ厠園茶留下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

〔虎列刺病豫防規則〕

第十三條 虎列刺病流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地方ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ 但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ布告シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民群集ヲ差止ムルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ他ノ部分ニ及サハル様遮斷シ得ヘキモノト認ムルキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スヲ得

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病流行ノ際ハ第十條第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

〔虎列刺病豫防規則〕

第廿四條 人民此規則ニ違背シタルハ一圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

○第八號 明治十六年 二月十四日達

明治十四年四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルハ時機ニ據リ官費支給スルコトアルヘシ

(丙)甲第二號 明治十八年一月 廿八日達

傳染病豫防消毒法之儀ハ追々相達置候處明治十三年當省乙第三拾六號ヲ以テ更ニ豫防心得書相達候コ付テハ從前ノ豫防法ハ總テ消滅ニ屬シ候條右達ニ據リ調製シタル消毒藥ハ同年第二十三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得事

(丙)乙第百十七號 明治十年十二月 廿八日達

便所下水芥溜ノ構造及掃除ノ不行届ヨリ其不潔物自然飲水ニ混シ各種流行病ノ原トナルモノ不潔就中虎列刺ノ病毒ハ永ク吐瀉物中ニ存シ土中ニ滲透シテ遂ニ飲水ニ混シ人身ニ入ルヲ以テ流傳ノ要路トナスカ故ニ本年虎列刺病有之地方ニ於テハ冬日沍寒ノ時ニ乘シ便所下水芥溜等ハ殊更ニ注意ヲ要ス各地ノ便宜ニ從テ修繕淨除ノ方法ヲ設ケ該毒再萌ノ豫防精々

注意可致其他ノ地方モ豫テ管下人民ニ告諭シテ漸次行届候様注意可致事

追テ本文施行ノ方法ハ當省へ可届出且右費用ノ儀ハ本年當省乙第九十七號達臨時費目ニ不立候條官民ノ區別ヲ立該廳限適宜可取計事

(丙)乙第二十六號 明治十一年 三月廿四日

昨年十二月乙第百十七號ヲ以テ下水便所芥溜掃除ノ儀相達候所下水ヲ浚ヘタル汚泥並ニ塵芥ヲ市街ノ傍ニ堆積シ及ヒ市街ノ道路修繕ニ供シ候テハ却テ危害ヲ釀シ候條可成市外人家遠隔ノ地ニ搬出候様措置可致此旨爲心得更ニ相達候事

追テ人家隔リタル田畑ノ培養ニ供シ候ハ不苦候事

(丙)乙第壹號 明治十六年一 月廿六日

虎列刺病者有之候節ハ別紙書式ニ據リ一應取調ノ上每一ヶ月分取總當省衛生局へ送致可致事

(別紙)

記載ノ解	問答ノ體ヲ上下ニ列示シタルハ記載ニ便ナラシメタル者コシテ其法ハ例ヘハ第一項郡區町村トアルニ某郡某村ニテ發セシ者ナレハ區町ノ二字ヲ塗抹	虎列刺病者取調書	戸長	姓名印
		(一) 職業	男 女	姓名
				郡區町村 番地
				年

〔傳染病者無資力者費用支辨〕 〔全消毒藥販賣〕 〔虎列刺病者調書式〕

シ又某區某町ニテ發セシ者ナレハ郡村ノ二字ヲ塗抹スルカ如シ他ノ項目モ亦之ニ倣フ

(一) 郡區町村番地ハ本籍寄留ニ拘ラス本人現住ノ地名ヲ記入シ又職業ハ各本人ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農業主(農ニシテ自ラ勞役セサル者)ト自ラ耕作スル者トヲ區別シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戸主何職業ト記スヘシ

(二) 發病ハ醫師ノ診斷時日ヲ拘ハラス發病シタル時日ヲ記入スヘシ

(三) 發病ノ場所ハ其發シタル郡區町村名ヲ記シ自宅ナレハ自宅旅籠屋ナレハ旅籠屋學校ナレハ學校途上ナレハ途上等ト明記スヘシ

(一) 發病ハ何日何時頃ナルカ	月日	午前 午後 時
(二) 發病ノ場所ハ如何	町郡	村區
(三) 體格ハ如何	強	弱
(四) 婚姻セシヤ	未	既有配偶 無配偶
(五) 發病前ニ罹リタル病ハナキヤ	有	無
(六) 常ニ虎列刺病ヲ甚シク畏ル、性ナルカ	畏	否
(七) 發病ノ誘因ハ如何		
(八) 前年其住家ニ同病患者アリシヤ	有	無
(九) 前年家族中ニ同病患者アリシヤ	有	無

(八) 發病ノ誘因ハ例ヘハ不食若シハ過度ノ飲食并其品名或非常勞動等渾テ其誘因ト認ムル者ヲ記入スヘシ若シ無キトキハ記入ニ及ハス

(十七) 三間以下ナレハ疊數並現住人ノ數ヲ記入シ四間以上ナレハ記入ニ及ハス

〔虎列刺病者調書式〕

(十一) 同病多キ地ニ行キノアリヤ 但行キノアラハ其地名	有	無
(十二) 家内ニ同病患者アリヤ	有 同時 以後	以前 無
(十三) 近隣ニ同病患者アリヤ	有 同時 以後	以前 無
(十四) 同病患者又ハ其汚物等ニ觸接セシヤ	觸	不觸
(十五) 暮シ方ハ如何	上 中 下	
(十六) 住家及其向ハ如何	表 裏 一戸建 裏 長屋 東西 南北	
(十七) 間數並ニ現在人ノ數ハ如何	四間以上	三間以下 八疊
(十八) 家屋ハ清潔ナリヤ	清潔	不潔
(十九) 飲料水ハ如何	上水 掘貫井 共用 掘井 共用	河水 掘貫井 共用 掘井 共用

(三十) 同一ノ飲料水ヲ用ユル者コシ テ同病ニ罹リシ者ナキヤ	有	無
(廿一) 便所ハ如何	一家用	總雪隠
(廿二) 同一ノ便所へ同病患者ノ行キ シトアリヤ	有	無
(廿三) 下水ハ如何	通	阻
(廿四) 近傍ノ潔否及燥濕ハ如何	清潔	不潔 燥濕
(廿五) 療養ノ場所ハ如何	自宅	病院

明治十八年
九月第二十
九號

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

明治十五年六月
第三十一號布告

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書
ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并ニ積荷
ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又
ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但検査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セ
シメ十分ノ消毒法ヲ施行スルヲ得

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染
ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ該病患者ハ之ヲ避病院若
クハ其住居若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ(若
シ縁故人ノ望アルキハ其望ニ隨ヒ)地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シ
タル後之ヲ埋葬ス可シ前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施
シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施
シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可
シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分
スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ

〔虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則〕

○天然痘豫防規則 (明治九年 內) 甲第十六號達

- 第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘ス可シ若シ事故アリテ此期ニ後ル、モノハ其次第ヲ醫務取締若クハ區戶長ニ届ケヘシ
- 但初痘ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ
- 第二條 種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ請取り置クヘシ
但天然痘變症ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ請取り置クヘシ
- 第三條 醫務取締若クハ區戶長ハ初種ノモノ再三種ノモノ及ヒ事故アリテ種痘スルヲ能ハサルモノ等夫々檢査シ地方廳ニ届ケ出ツヘシ
- 第四條 地方廳ニ於テハ醫務取締若クハ區戶長ノ届書ヲ以テ半ケ年分ツ、取纏メ毎月三月九日內務省ニ出スヘシ
- 第五條 送籍ノキハ必ス第二條ニ掲ケル醫師ノ證書ヲ所持ス可シ
但滿二十五年以上ノモノ並天然痘濟ノ證跡アルモノハ此限ニアラス
- 第六條 管内ニ於テ天然痘流行スルキハ官廳ヨリ流行ノ緩急病症ノ輕重等ヲ接近ノ府縣ニ報告シ且內務省ニ届出ツ可シ
- 第七條 前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年齡期限ヲ問ハス普ク接種スヘシ

ヘシ

第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セス或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若クハ他人ヲ蠱惑スル等ノ者ハ違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科ス可シ

○種痘規則 明治十八年十一月九日 第三十四號布告

- 第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以內ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ
- 第二條 種痘ハ善感後ト雖ヒ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ
- 第三條 天然痘流行ノ兆アルキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ
- 第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ
- 第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢疹ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

〔天然痘豫防規則〕 〔種痘規則〕

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戸長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未満ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢疹シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○帶刀ニ關スル處分 明治九年三月八日

第三十八號布告

自今大禮服着用并ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀禁セラレ候但違背ノ者ハ其刀可取上事

○賭博犯處分規則

明治十七年一月四日 第一號布告

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候得共當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方長官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノヲ行ハシム

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタルモノ亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帶シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲役及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分スヘシ

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリモ之レニ立入ルヲ得

但シ警察官ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細目ハ警察總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルヲ得

(太)第十號 明治十七年 一月廿一日

〔帶刀ニ關スル處分〕〔賭博犯處分規則〕

本年第壹號布告ニ依リ懲罰ニ處シタル賭博犯人ハ明治十四年九月第八十一號達監獄則第壹條第五項禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニ準シ服役其他ノ方法共總テ該則ニテ處分スヘシ此旨相達候事

本年第壹號布告ニ依リ處分シタル賭博犯懲罰人ノ儀左ノ通り心得ヘシ此旨相達候事
明治十七年二月廿八日達

一 懲罰ニ處シタル者徵兵年齡ニ相當スルキハ右懲罰ノ處分滿期ニ至リ召募ニ應セシムル事

一 懲罰ニ處シタル者ハ公權ヲ停止スルノ限リニアラスト雖モ懲罰限内勳章ヲ佩用シ及後見人管財人若クハ其財産ノ管理人ト爲ル等ノコトヲ得セシメサルコト

一 府縣會ノ議員タル者賭博ノ所爲アリ懲罰ニ處シタルキハ其議員タル資格ヲ失ハスト雖モ議場ニ參列スルヲ許サ、ルハ勿論撰舉被選舉權ヲ有スル者モ懲罰限内ハ之ヲ行ハシメサル事

一 帶動者ヲ懲罰ニ處シタルキハ其都度當省ヘ可届出事

(内)乙第廿六號 明治十七年五月十九日

賭博犯過料金ノ儀ハ明治十五年六月大藏省達第廿一號雜收入金上納順序ニ從ヒ同省ヘ納付可

致事

但シ本文之通り納付候ハ、明治十六年四月乙第十三號達ニ準據シ當省ヘ届出ツヘシ

(陸)甲第廿三號 明治十七年五月廿二日

徵兵ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受ケ右處分中ハ徵集ヲ猶豫シ又其處分中常備年期ヲ經過スル者ハ年齡滿三十二歲迄第二豫備徵員トス可キ儀ト可心得事

○太政官達第四拾九號 明治十八年九月二日

陸海軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルキハ同令第六條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノキハ同令陸軍ハ第二十八條 海軍ハ第二十九條ニ準スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

但シ明治八年四月第四拾八號達陸軍武官傷痕扶助死亡ノ者祭察家族扶助概則及同年八月第百

四拾八號達海軍退隱令ニ依リ扶助料若シハ退隱料ヲ受クル者モ本文ニ準スヘシ

○第六十四號 明治十四年十二月九日布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百廿五條第十項ニ明記有之候得共當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通り東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

(神)甲第七十七號 明治十七年十月六日達

〔密賣淫處分規則〕

密賣淫處分規則

第一條 密賣淫ヲ爲シ及ヒ窩主又ハ媒合容止者ハ三拾圓以下ノ過料六月以下ノ懲戒ニ處ス
過料懲戒ハ單ニ之ヲ科シ又ハ併セテ之ヲ科ス

第二條 過料ハ言渡シタル日ヨリ五日內ニ完納セシム若シ限內納完セサル者ハ六ヶ月以內ノ懲戒ニ換フ

古物商取締條例

明治十六年十二月廿八日
第五十號布告

第一條 古物商トハ古道具古本古書畫古銅錢遺金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋監甲屋時計屋飾屋箔屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ簿冊ニ記載シ且賣主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラ

六

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癩者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得

ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニ非ラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第

四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運搬セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物

〔古物商取締條例〕

品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ

但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贖物ノ品觸アルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ若シ届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐欺ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第二百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル

古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

- 一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀款章番號ヲ記載スヘシ
- 二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス
- 三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルキハ其物ヲ現狀之儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルキハ其物品ノ形狀價額年月日ヲ簿冊ニ記載シ且ツ買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊セシメントスルキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三百圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第壹條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルキハ直ニ之ヲ完納セシム若シ完納セサル者ハ拘留セラレ、コトアルヘシ

〔古物商取締條例〕

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否ヤトヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第廿二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第廿三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視廳總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

(內)乙第十五號 明治十七年三月十七日達

客年第五十號公布古物商取締條例第廿一條官ニ沒スル物品ノ儀ハ當省達九年乙第百三十六號十五年乙第七十號十六年乙第十三號ニ準據シ可取計候事

●前橋始審裁判所檢事ヨリ古物商取締條例ノ儀ニ付司法省ヘ伺

明治十六年第五十號布告古物商條例第十八條特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルキハ直チニ之ヲ完納セシムトアリ若シ完納セサ

ル者ハ裁判確定ノ後ハ刑法第廿七條ニ照シ換刑ノ處分及ヒ可然哉又若シ完納セサル者ハ犯情ニ依リ其換刑ノ處分ニ及ラズ迄ノ時間檢察官ニ於テ留置スルヲ得ル儀ト心得可然哉此段相伺候也

明治十七年一月十一日

指令 明治十七年一月廿七日

伺之趣留置處分ハ行政ノ處分ニ屬スルヲ以テ裁判確定ノ後完納セサル者ハ司法警察官ヘ交付スヘキ儀ト心得ヘシ

●神奈川縣ヨリ古物商條例ノ義ニ付内務省ヘ伺 明治十七年四月廿四日

古物商物品ヲ賣買交換スルハ免許ヲ受タル地方ニ限ルヘキ筈ニ付管轄外ニ於テ賣買セントスル時ハ行商ノ免許アルト否トニ關セス更ニ其應ニ於テ條例第二條ノ免許ヲ受ケシム可キ哉若シ別ニ賣渡シ又ハ交換ヲ爲サス單ニ買取ニ止マル者ハ通常人民ト同視シ免許ヲ要セスシテ可然哉至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

指令 明治十七年四月廿九日

書面伺之趣免許ヲ受ケシムル義ト心得事

但同業者相互ノ賣買交換ハ此ノ限ニアラス

〔古物商取締條例〕

●司法省 新潟縣ヨリ古物取締條例 明治十七年 二月廿三日

千四百十

第壹條 古物商條例第四條但書ニ身元詳ナル者其證人タル時又ハ警察官若シクハ巡查ノ認可云々トアリ爰ニ鹿兒島或ハ宮城縣等ノ身元詳カナラサル者新潟港へ來リ或ル古物商者ニ就キ物品ヲ賣ラント云フ其商者ハ近隣ノ某ヲ連レ來リ賣主トハ曾テ面識ナキ者ヲ證人ニ立テ買ヒ取リタルキハ其證人ノ効力ナキ者ト心得可然哉

第二條 同條例第六條前略ス單ニ警察官ノ許可ヲ受クヘシトアリテ證人等ノ文字ナキヲ以テ視ルキハ四條ト六條ハ其精神ヲ異ニスル勿論ノ處警察官ノ許可ヲ受ケスシテ前條ノ如ク賣主ト面識ナキ者ヲ證人ニ立テ物品ヲ買取り又ハ交換シ及寄藏シタル後テ其者盜罪詐欺取財ノ罪及刑法第三百九十九條第四百壹條ノ處斷ヲ受ケタルコト判然タルトキハ違犯者ト心得可候哉

右ハ古物商取締條例ヲ御頒布相成リタル御旨意ノアル處ハ不正品ヲ天下ニ自由ナラシメサルニ據ル者ナルヘシ然ルニ同例第四條ト第六條ノ解釋ニ付種々ノ論有之何分疑義ヲ生シ候條仰御内訓候也

請訓ノ趣左ノ通り心得ヘシ 明治十八年 二月十二日

第壹條 見解ノ通りタルヲ以テ古物商條例第四條ノ違犯者トシテ處斷ス可キ者トス

第三條 物品ヲ取受スル時ニ當リ全ク同條例第六條ニ列記シタル犯人タルコト知ラサルキハ單ニ第四條ノ違犯者トシテ處斷ス可キ者トス 右及内訓候也

○質屋取締條例 明治十七年三月廿五日 第九號布告

第一條 質屋營業ヲ爲スモノハ管轄廳(東京府ハ)ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヒ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ

但證人ヲ要スルキハ質入主及ヒ證人ノ實印ヲ押捺セシメ置ヘシ

第四條 身元詳カナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス

但身元詳カナル者證人タルキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴癡癪者及雇人(雇主ノ家ニアル者)ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス 但父母後見人雇主又ハ身元詳カナルモノ證人タルキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺會社、ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキ事ヲ證明スル證人二名以上アルニ非レハ之レヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

〔質屋取締條例〕

千四百十一

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコトナク質物ヲ取戻サル、事アルヘシ

第六條 盜罪、詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルキハ直ニ所轄警察署ヘ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト見認メタル物品ヲ持來ル者アルキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルキハ警察官ニ於テ其物品代價及ヒ買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルキ若クハ其以前ノ質物及ヒ寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及ヒ帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其

質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之レヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐欺ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例チ一年内ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例チ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任ス可シ

第十八條 此條例チ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府除ク縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○墓地及埋葬取締規則 明治十七年十月四日 (内)第廿四號達

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後廿四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス但別段ノ規則アルモノハ此限ニ非ス

〔墓地及埋葬取締規則〕

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但改葬ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非レハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス

又警察署ノ認可ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視廳監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

(太)第八十二號 明治十七年十月四日

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

●佐賀縣ヨリ墓地火葬場新設ノ儀ニ付内務省ヘ伺 明治十七年十一月十一日

御省乙第四拾號達墓地火葬場新設ノ方法ハ衛生樞要ノ事件ニ付地方衛生會ニ附議シタル上施行セサレハ太政官ヨリ定メラレタル衛生會規則ニ背クニ似タリ故ニ墓地取締規則ヨリ相省キ相當ノ順序ヲ經テ施行シタシ

指令 明治十七年十月二十九日

當省乙第四十號達ノ儀ニ付本月十一日附向ノ趣ハ墓地火葬場新設ノ方法ノミニ限ラス該達ニ依リ相定ムヘキ方法細目ノ全部トモ施行前地方衛生會ノ審議ニ付スヘキ儀ト心得ヘシ

(丙)乙第四十號 明治十七年十一月十八日

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル(但已ムコトヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ)

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ此限ニアラス(但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス)

第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ミ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セ

ント欲スルキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラズ

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ給圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

○違警罪即決例 明治十八年九月廿四日 第三十一號布告

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書

〔違警罪即決例〕

テ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○違警罪處分手續 (明治十八年 神)巳第四十號達

第一條 警部巡查違警罪ノ犯人ヲ日躰シタル時ハ現場ニ於テ左ノ手續ヲ爲シ警察署長又ハ分署長ニ告發スヘシ

一 被告人ノ住所氏名年齢身分職業罪狀犯數犯罪ノ場所年月日時ヲ手帖ニ記載シ之レヲ被

告人ニ讀聞セ被告人自認シタルキハ記名セシムヘシ

若シ被告人自認セサルカ又ハ記名スル能ハサル時ハ其事由ヲ記載スヘシ

二 若シ住所氏名曖昧ナリト思量シ又ハ逃亡ノ恐れアリト認ムル者ハ前項ノ手續ヲ爲シタル上引致スヘシ

第二條 違警罪ハ必ス警察署長分署長ニ於テ之レヲ即決スヘシ若シ不在ナルキハ豫テ定メタル代理者ニ於テ即決スヘシ

第三條 違警罪即決ニ就テハ即決表(付録一)ニヨリ其事項ヲ記入シ別ニ言渡書(付録二)ヲ作り署名捺印スヘシ

第四條 被告人他ノ管轄内ニ居住スルキハ時宜ニ依リ其即決ノ處分若クハ呼出狀言渡書ノ送達又ハ確定裁判ノ執行方ヲ其所轄警察署ヘ囑托スルヲ得

第五條 呼出狀及ヒ即決例第二條第二項ノ裁判言渡書ハ所屬使丁ヲ以テ送達セシム其遠隔ノ地ニ在テハ便宜送達スヘシ

第六條 即決例第六條ノ場合ニ於テハ即決表及言渡書ノ謄本其他ハ正本ヲ送致スヘシ

第七條 假納セシ科料又ハ保證金ヲ徴スル時ハ言渡書ヲ爲シタル主任之ヲ受ケ帳簿ニ登記シテ用度掛ニ移シ領收證ヲ發スヘシ

裁判確定シタルキハ用度掛ニ通知シテ還付又ハ沒收ノ手續ヲ爲スヘシ但分署ハ署長ニ於テ都テ手續ヲ爲スヘシ

第八條 被告人又ハ訴訟關係人若クハ是等ノ者ノ代人ヨリ裁判言渡書ノ謄本又ハ抜書ヲ求メタルキハ直ニ下付スヘシ

付録第一 表

番號	治第	號	告發	又ハ	引致	者	氏名	罪名	刑名	犯數													
									掛官														
囑托	明	治	何	年	何	月	何	日	何	時	何	分	何	秒	何	分	何	秒	何	分	何	秒	
保	何	程	ヲ	命	シ	直	ニ	差	出	ス	差	出	サ	ス	又	ハ	何	々					
假	前	項	ニ	全	シ																		
留	明	治	何	年	何	月	何	日	何	時	何	分	何	秒	何	分	何	秒	何	分	何	秒	
執	還	又	ハ	違	警	罪	裁	判	所	ノ	呼	出	狀	送	達	コ	ヨ	リ	何	日	解	放	等
行	明	治	何	年	何	月	何	日	何	時	何	分	何	秒	何	分	何	秒	何	分	何	秒	
	致	又	ハ	換	刑	等																	

〔違警罪處分手續付録表〕

言渡	明治年月日	被告	呼出サス呼出	人出	不參明治何年	頭ノ	何月何日何時	有無	出頭又ハ引致	正式	明治何年月日	請求ノ申立書	判ノ出ス又ハ差	有無	出スモ期限經	過付却下等	正式	明治年月日原	裁判ノ通判決	言渡	又ハ何々ニ破棄等
		被告	原籍府國郡町	住所	番地身分何業	氏名	現住府國郡町	職	及	年	身	分	業	何	某	何	年	何	月		

陳述ノ要領

陳述ノ要領

付録第二

言渡書

住所

身分職業

氏名

年齢

右被告人誰某カ明治 年月日 時何處ニ於テ何々シタル事ハ(期滿免除ニ係ルヲ以テ免訴)又(期滿免除ニ係ルヲ以テ免訴)又(證據不充分)(證據ナキ)ヲ以テ無罪(管轄違)相当官吏ノ告發又ハ巡查某カ現場ニ於テ見認メタル節汝カ記名セル證憑ニヨリ(又ハ何々何)明了ナリトス右所爲、(何規則第何條刑法第何條)ニ該當スルヲ以テ(全規則第何條全)ニ照シ(拘留)何程ニ處ス(條全條例第何條)

此即決裁判ニ不服アルハ三日内ニ正式ノ裁判ヲ求ムルヲ得(欠席裁判)此即決裁判ニ不服アルハ五日内ニ正式ノ裁判ヲ求ムルヲ得

明治 年月日 何(警察署)ニ於テ 何長 某印

(司)丙第九號 明治十八年 十一月五日 本年九月第三十一號ヲ以テ違警罪即決例ノ布告アリタルニ付テハ明治十四年十二月當省丙第九號達中違警罪事件表ヲ廢シ更ニ左ノ通違警罪即決表ヲ調成シ差出方ハ従前ノ例ニ因ルヘシ此旨相達候事

〔違警罪即決表〕

明治何年何月中何警察署又ハ何違警罪即決件數表

何月何日調	違警罪 總件數	言渡件數區分		上數ノ内正式ノ 裁判ヲ請求ス
		無罪	刑ノ言渡	
署長 官氏名印				

一 犯罪事件ニ於テ前ニ比較シ甚ク増減ヲ生シタル時ハ表外或ハ別紙ニ署長ノ意見ヲ附スヘキ者トス假令ハ管内人口ノ増減其他ノ事故等ニ起因シテ増減ヲ致シタリト認メシ理由ヲ述ルノ類ナリ

(司)丙第十號 明治十八年十二月九日達

明治十五年三月當省丙第十二號ヲ以テ違警罪裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付ス可キ費用ハ當分徴收ス可カラサル旨相達置候處本年九月第三十一號ヲ以テ違警罪即決例公布相成候付テハ自今該裁判ノ正式ニ係ルモノハ該費用ヲ徴收シ其即決ニ係ルモノハ從前ノ通取計可キ此旨相達候事

●福島輕罪裁判所若松支廳檢事ヨリ違警罪事件取扱方之儀司法省へ請訓 明治十八年十月六日

本年九月廿四日第三十一號ヲ以テ違警罪即決例公布セラレ候ニ付テハ自今違警罪事件ハ總テ一應即決ノ言渡ヲ受シムルモノ、如ク被相考候果シテ然ラハ本職又ハ違警罪裁判所檢察官ニ於テ告發其他ノ理由ヨリ認知シタル違警罪事件ハ必ス警察官へ送致スヘキ儀ト相心得可然哉

(内訓) 明治十八年十一月卅日

別紙請訓之趣見解ノ通行及内訓候也

●京都府ヨリ違警罪即決處分ハ他府縣へ囑託スルヲ得ヘキヤ否ヤノ疑義司法省へ伺 明治十八年十月二十日

違警罪即決處分ハ他府縣へ囑託シ得ヘキヤ

指令 明治十八年十月廿六日

伺之趣ハ見込之也

●滋賀縣ヨリ違警罪正式裁判ニ係ル訟廷内治罪手續之儀ニ付司法省へ伺 明治十八年十月十五日

明治十四年第五十四號布告但書ニ依レハ始審裁判所所在地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判ヲ爲ス際訟廷内治罪ノ手續ハ便宜取計フヲ得ル上ハ今般第三十一號布告違警罪即

〔違警罪即決例指令〕

決處分ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求シ其裁判ヲ爲ス際訟廷内治罪手續モ亦便宜ニ取計ト可然哉
果シテ然ラハ裁判官ト協議ノ上其事件ノ難易ニ依リ檢察官ノ公廷ニ立會ハサルモ敢テ差支
無之様相考候得共違警罪正式裁判ニ係ル訟廷内治罪手續ニ付テハ未タ何等御布告等モ無之
ニ付一應此段相伺候

指令 明治十八年十一月十一日

伺之趣治罪法ニ從フ可キ儀ト心得ヘシ

○警察署諸裁判所位置届出方

(内)乙第十號 明治十五年二月六日

各管内警察署分署ノ位置區畫等是迄書面ヲ以テ届出候所更ニ管内全圖ニ就キ別紙符號ノ點
線ヲ施シ^{加筆ニテ}差支ヘス位置區畫ヲ明著シタル地圖ニ業往復ヲ除クノ外日數三十日ヲ限り可差出
此旨相達候事

但爾後管内警察區畫等ヲ改正シ地圖ニ大ナル變更ヲ生シ候節ハ其都度本文ニ準シ地圖調
進可致候事

符號 (符號ハ朱)

- ★ 警察本署
- ☆ 警察署
- ◇ 警察分署
- △ 巡查交番所
- 警察署所轄區畫

- …… 警察分署所轄區畫
- ⊗ 控訴裁判所
- ⊘ 始審裁判所
- × 治安裁判所
- ⊠ 監獄
- ⊙ 郡區役所
- ◇ 巡查屯所 警視廳所轄ニ限ル
- △ 巡查派出所 全上

第二纂

千四百二十八

一 刑法緊連諸規則ノ部

○罰例處斷法

明治十四年十二月廿八日
第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未滿ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ法律ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

●司法卿ヨリ諸罰則違犯者自首減輕ノ儀ニ付太政官ヘ伺

明治十五年
五月十九日

諸罰則違犯者處斷方ノ儀ハ明治十四年第七十二號ヲ以テ御布告有之右ニ記載シタル以外ノ外ハ刑法ノ總則ニ從フヘキニ付其違犯者事未タ發覺セサル前ニ自首シタル時ハ他ノ法律規則中正條アル者ヲ除ク外刑法第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ可然哉諸罰則違犯者ハ通常犯罪者ト全視シ難キ者アルニ付此段爲念相伺候間至急御指揮有之度候也

指令 伺之通

明治十五年
六月十九日

(司)丁第十六號

明治十八年八月
十三日達

明治十四年當省丁第二十八號送達書呼出狀召喚狀拘引狀拘留狀收監狀宣誓書式第一葉及明治十七年當省丁第八號達民事呼出狀並送達書々式第一號ニ用紙美濃紙ノ類ト記載有之候處右ハ半紙ヲ以テ換用スルモ苦シカラス

(司)丁第二十八號

明治十四年
十二月達

治罪法中ニ掲ゲタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀拘留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通相定候條右ニ照準スヘシ

〔令狀雛形〕

千四百二十九

輪廓寸法凡 豎七寸五分 横五寸四分

呼出狀

(住所身分職業) (氏名)

右(云々)ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル(何月日時何)所ニ出頭可致者也

但同日出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ

朱

何裁判 明治 年月 日 所之印

(何)裁判所

豫審判事(氏名印) 書記(氏名印)

口口

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

此呼出狀ハ出頭ノ節 書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若シハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年月 日

使丁 (氏名印)

害口

一葉ヲ書記局へ還納ス可シ

呼出狀

(住所身分職業) (氏名)

右(云々)ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル(何月日時何)所ニ出頭可致者也

但同日出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ

朱

何裁判 明治 年月 日 所之印

(何)裁判所

豫審判事(氏名印) 書記(氏名印)

此呼出狀ハ出頭ノ節 書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若シハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年月 日

使丁 (氏名印)

[令狀雛形]

召喚狀

(住所身分職業)
(氏名)

右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之(何
月日時)當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月

朱
何裁判
日
時
所之印

(何)裁判所

豫審判事 (氏名印)

書記 (氏名印)



是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

右之通取扱候也

明治 年 月 日

使丁 (氏名印)

受取人ノ署名捺
印若シ能ハサル
時ハ其事由

送達シタル月日
時

送達シタル場所

親屬雇人若シハ
戸長へ書類ヲ渡
シタル時ハ其事
由

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

召喚狀



(住所身分職業)
(氏名)

右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之(何
月日時)當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月

朱
何裁判
日
時
所之印

(何)裁判所

豫審判事 (氏名印)

書記 (氏名印)

〔令狀雛形〕

受取人ノ署名捺
印若シ能ハサル
時ハ其事由

送達シタル月日
時

送達シタル場所

親屬雇人若シハ
戸長へ書類ヲ渡
シタル時ハ其事
由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

使丁 (氏名印)

朱 檢事官印 勾引狀

(住所身分職業) 朱(若シ氏名分明ナラサ) (ルキハ容貌體格等) 右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判所へ勾引ス可キ者也 但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年月 朱 何裁判 日時 所之印

(何)裁判所 審豫判事(氏名印) 書記(氏名印)



朱 是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

勾引シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由 執行シタル月日時 執行シタル場所 執行ノ手續 家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由 勾引スルヲ能ハサル時ハ其事由 右之通取扱候也

明治 年月 日

(巡查又ハ憲兵氏名印)



一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

朱 檢事官印 勾引狀

(住所身分職業) 朱(若シ氏名分明ナラサ) (ルキハ容貌體格等) 右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判所へ勾引ス可キ者也 但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年月 朱 何裁判 日時 所之印

(何)裁判所 豫審判事(氏名印) 書記(氏名印)

[令狀雛形]

勾引シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由 執行シタル月日時 執行シタル場所 執行ノ手續 家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由 勾引スルヲ能ハサル時ハ其事由 右之通取扱候也

明治 年月 日

(巡查又ハ憲兵氏名印)

朱(檢事官印)

勾留狀

(住所身分職業)

朱(若シ氏名分明ナラサ)

右(云々)ノ事件ニ付治罪法第百二十六條ノ規則ニ從ヒ(何所)監倉、勾留ス可キ者也

明治 年月 日 何裁判所之印

(何)裁判所

豫審判事(氏名印) 書記(氏名印)



是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

(巡查又ハ憲兵氏名印)

勾留シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	執行シタル月日	執行シタル場所	執行ノ手續	家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由	勾留スル事能ハサル時ハ其事由	右之通取扱候也
						明治 年月 日時
						(巡查又ハ憲兵氏名印)



一葉ヲ書記局へ還納ス可シ

朱(檢事官印)

勾留狀

(住所身分職業)

朱(若シ氏名分明ナラサ)

右(云々)ノ事件ニ付治罪法第百二十六條ノ規則ニ從ヒ(何所)監倉、勾留ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年月 日 何裁判所之印

(何)裁判所

豫審判事(氏名印) 書記(氏名印)

(巡查又ハ憲兵氏名印)

勾留シタル被告人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	執行シタル月日	執行シタル場所	執行ノ手續	家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由	勾留スル事能ハサル時ハ其事由	右之通取扱候也
						明治 年月 日時
						(巡查又ハ憲兵氏名印)

[令狀雛形]

朱

檢事官印 收 監 狀

千四百三十八

(住所身分職業) 氏名
 一未遂犯ニ付減等
 一未丁年ニ付減等
 一再犯ニ付加重
(若シ住所氏名分明ナラサルハ容貌體格等)

右云々ノ事件ニ取調ヲ爲シタル處刑法第何條ニ該ルヘキ者ト思料ス依テ何處監倉ヘ收監スヘキモノ也
 但本人潛匿シタルルキハ家宅ヲ搜索スヘシ

明治 年 月 日
 何裁判所之日所之印

官 (氏名印)
 官 (氏名印)



右ノ通取扱候也

明治 年 月 日

(巡查又ハ憲兵氏名印)

宣 誓 書

(何々ノ) 事件ニ付 愛憎畏懼ノ
 心ナシ 總テ正實ニ
 キコチヲ誓フ
(通譯陳述定鑑)
 ス可

明治 年 月 日

(通證人) 氏名印

○既決囚ニ對シ發スル令狀

明治十四年十二月廿八日 (司)丙第二十號達

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所ノ檢事ヨリ發スル儀ト可心得事

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左ノ通心得ヘシ

[請令狀執行方]

千四百三十九

逮捕状ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二號書式ニ准シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ但管轄地ノ内外ニ拘ハラヌ急遽ノ際巡査ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

管轄地外ハ第一號書式ニ准シ人相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託

ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ

(司)丙第十四號 明治十五年四月十七日達

一 既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ明治十四年丙第二十號ヲ以テ相達置候處始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

○勾引狀期限ノ事 明治十五年二月六日 (司)丙第四號達

一 治罪法ニ定メタル勾引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラス但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用ヒサル儀ト可心得事

(内)乙第十八號 明治十二年四月十六日達

府縣會議員犯罪ノ廉有之拘引ヲ要スルモ其會場内ニアル時ハ議長ノ承諾ヲ得タル上勾引可致此旨相達候事

○勾引狀勾留狀收監狀ノ件 明治十四年九月廿日 第四十六號布告

一 書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候得共當分ノ内不及其儀候事

一 治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告入ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタルキハ其被告入逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

一 治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候得共當分ノ内二名ト相定候事

一 治罪法第一百條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アルキハ當分ノ内現行犯ニ準シ處分スルヲ得

一 治罪法第三百三十條第二項ニ家宅搜索ノ制限有之候得共芝居人寄飲食店湯屋遊船待合茶屋ノ類ハ日出ノ前日没后ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸坐敷ハ日出前日没后ニ拘ハラヌ搜索致シ苦シカラス

[附令狀執行心得]

一治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ當分ノ内司法警察官ニ囑託スルヲ得

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ニ於テハ令狀ヲ發スルヲ得サル旨記載有之候得共當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカラス

(司)第六七八〇號 明治十五年 十二月四日達

明治十四年第四十六號布告末項ニ據リ司法警察官ニ於テ發スル令狀ハ勾留狀迄ニ止ル旨指令或ハ内訓ニ及ヒ置タル處右指令内訓ハ取消シ收監狀ヲモ包含候儀ト心得ヘシ

但司法警察官ハ一月毎ニ左ノ雛形ニ依リ收監表ヲ作り所管檢事ニ差出スベシ又檢事ハ一月毎ニ同一ノ雛形ニ依リ收監表ヲ作り司法警察官ヨリ差出シタル收監表ト同時ニ司法卿ニ進達スベシ

起訴前收監表

收監シタル 被告人氏名	起訴前收監表

收監シタル 年月日	罪名	急速ニ處分 ヲ終ラサル 事由

(對照)(治)第十八條ヨリ第四十條ニ至ル〇第七十三條〇第六十一條〇第一百八條〇第一百〇二條〇第一百〇七條〇第一百〇九條〇第一百一十條〇第一百一十一條〇第一百一十二條〇第一百一十三條〇第一百一十四條〇第一百一十五條〇第一百一十六條〇第一百一十七條〇第一百一十八條〇第一百一十九條〇第一百二十條〇第一百二十一條〇第一百二十二條〇第一百二十三條〇第一百二十四條〇第一百二十五條〇第一百二十六條〇第一百二十七條〇第一百二十八條〇第一百二十九條〇第一百三十條〇第一百三十一條〇第一百三十二條〇第一百三十三條〇第一百三十四條〇第一百三十五條〇第一百三十六條〇第一百三十七條〇第一百三十八條〇第一百三十九條〇第一百四十條〇第一百四十一條〇第一百四十二條〇第一百四十三條〇第一百四十四條〇第一百四十五條〇第一百四十六條〇第一百四十七條〇第一百四十八條〇第一百四十九條〇第一百五十條〇第一百五十一條〇第一百五十二條〇第一百五十三條〇第一百五十四條〇第一百五十五條〇第一百五十六條〇第一百五十七條〇第一百五十八條〇第一百五十九條〇第一百六十條〇第一百六十一條〇第一百六十二條〇第一百六十三條〇第一百六十四條〇第一百六十五條〇第一百六十六條〇第一百六十七條〇第一百六十八條〇第一百六十九條〇第一百七十條〇第一百七十一條〇第一百七十二條〇第一百七十三條〇第一百七十四條〇第一百七十五條〇第一百七十六條〇第一百七十七條〇第一百七十八條〇第一百七十九條〇第一百八十條〇第一百八十一條〇第一百八十二條〇第一百八十三條〇第一百八十四條〇第一百八十五條〇第一百八十六條〇第一百八十七條〇第一百八十八條〇第一百八十九條〇第一百九十條〇第一百九十一條〇第一百九十二條〇第一百九十三條〇第一百九十四條〇第一百九十五條〇第一百九十六條〇第一百九十七條〇第一百九十八條〇第一百九十九條〇第二百條

(刑)〇第二百〇一條〇第二百〇二條〇第二百〇三條〇第二百〇四條〇第二百〇五條〇第二百〇六條〇第二百〇七條〇第二百〇八條〇第二百〇九條〇第二百一十條〇第二百一十一條〇第二百一十二條〇第二百一十三條〇第二百一十四條〇第二百一十五條〇第二百一十六條〇第二百一十七條〇第二百一十八條〇第二百一十九條〇第二百二十條〇第二百二十一條〇第二百二十二條〇第二百二十三條〇第二百二十四條〇第二百二十五條〇第二百二十六條〇第二百二十七條〇第二百二十八條〇第二百二十九條〇第二百三十條〇第二百三十一條〇第二百三十二條〇第二百三十三條〇第二百三十四條〇第二百三十五條〇第二百三十六條〇第二百三十七條〇第二百三十八條〇第二百三十九條〇第二百四十條〇第二百四十一條〇第二百四十二條〇第二百四十三條〇第二百四十四條〇第二百四十五條〇第二百四十六條〇第二百四十七條〇第二百四十八條〇第二百四十九條〇第二百五十條〇第二百五十一條〇第二百五十二條〇第二百五十三條〇第二百五十四條〇第二百五十五條〇第二百五十六條〇第二百五十七條〇第二百五十八條〇第二百五十九條〇第二百六十條〇第二百六十一條〇第二百六十二條〇第二百六十三條〇第二百六十四條〇第二百六十五條〇第二百六十六條〇第二百六十七條〇第二百六十八條〇第二百六十九條〇第二百七十條〇第二百七十一條〇第二百七十二條〇第二百七十三條〇第二百七十四條〇第二百七十五條〇第二百七十六條〇第二百七十七條〇第二百七十八條〇第二百七十九條〇第二百八十條〇第二百八十一條〇第二百八十二條〇第二百八十三條〇第二百八十四條〇第二百八十五條〇第二百八十六條〇第二百八十七條〇第二百八十八條〇第二百八十九條〇第二百九十條〇第二百九十一條〇第二百九十二條〇第二百九十三條〇第二百九十四條〇第二百九十五條〇第二百九十六條〇第二百九十七條〇第二百九十八條〇第二百九十九條〇第三百條

(太)日明治十四年九月廿四日布告 第四項第六項 〇明治十四年一月八日 第五十九號布告

(太)日明治十四年九月廿二日布告 〇明治十七年七月十日 第八十八號達

(佛治)日千八百八十八年十一月十七日布告 〇第九十一條 〇第九十四條 〇第九十五條 〇第九十六條 〇第九十七條 〇第九十八條 〇第九十九條 〇第一百條 〇第一百零一條 〇第一百零二條 〇第一百零三條 〇第一百零四條 〇第一百零五條 〇第一百零六條 〇第一百零七條 〇第一百零八條 〇第一百零九條 〇第一百一十條 〇第一百一十一條 〇第一百一十二條 〇第一百一十三條 〇第一百一十四條 〇第一百一十五條 〇第一百一十六條 〇第一百一十七條 〇第一百一十八條 〇第一百一十九條 〇第一百二十條 〇第一百二十一條 〇第一百二十二條 〇第一百二十三條 〇第一百二十四條 〇第一百二十五條 〇第一百二十六條 〇第一百二十七條 〇第一百二十八條 〇第一百二十九條 〇第一百三十條 〇第一百三十一條 〇第一百三十二條 〇第一百三十三條 〇第一百三十四條 〇第一百三十五條 〇第一百三十六條 〇第一百三十七條 〇第一百三十八條 〇第一百三十九條 〇第一百四十條 〇第一百四十一條 〇第一百四十二條 〇第一百四十三條 〇第一百四十四條 〇第一百四十五條 〇第一百四十六條 〇第一百四十七條 〇第一百四十八條 〇第一百四十九條 〇第一百五十條 〇第一百五十一條 〇第一百五十二條 〇第一百五十三條 〇第一百五十四條 〇第一百五十五條 〇第一百五十六條 〇第一百五十七條 〇第一百五十八條 〇第一百五十九條 〇第一百六十條 〇第一百六十一條 〇第一百六十二條 〇第一百六十三條 〇第一百六十四條 〇第一百六十五條 〇第一百六十六條 〇第一百六十七條 〇第一百六十八條 〇第一百六十九條 〇第一百七十條 〇第一百七十一條 〇第一百七十二條 〇第一百七十三條 〇第一百七十四條 〇第一百七十五條 〇第一百七十六條 〇第一百七十七條 〇第一百七十八條 〇第一百七十九條 〇第一百八十條 〇第一百八十一條 〇第一百八十二條 〇第一百八十三條 〇第一百八十四條 〇第一百八十五條 〇第一百八十六條 〇第一百八十七條 〇第一百八十八條 〇第一百八十九條 〇第一百九十條 〇第一百九十一條 〇第一百九十二條 〇第一百九十三條 〇第一百九十四條 〇第一百九十五條 〇第一百九十六條 〇第一百九十七條 〇第一百九十八條 〇第一百九十九條 〇第二百條

(内)(司)乙第三十四號 明治十七年 七月十七日達

罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルヲ得ル儀ト心得可シ

〔諸令狀執行方及雛形〕

(告訴書式)

(被告人)住所身分職業

氏名

年齢

右者自分ニ對シ何年何月何日何時頃何所衆人集合ノ席ニ於テ何々ノ言語ヲ以テ罵詈又ハ嘲弄セリ其節證人ノ住所氏名ハ左ノ如シ

住所

氏名

年齢

此段告訴仕候也

右申立ル處ヲ録シ本人ニ讀聞セタルニ相違ナキ旨申立ルニ付共ニ署名捺印スル者也

何警察署又ハ

警部補又ハ
代理巡查

氏名
印

告訴人

氏名
印

年月日時

○(告訴告發ヲ受ケタル時ノ調書式)

何誰ヨリ何ノ誰ニ對スル(告)又ハ(發)ノ調書其代人ナル時ハ何ノ誰代人何ノ誰ヨリト書ス

被告人本籍並ニ現住ノ地身分職業

氏名

年齢

右ハ自分ニ對シ(其告發ニ係ル時ハ)何ノ犯罪有之其始末左ノ如シ

云々

但證據物件何點差出シ候且證人ノ住所ハ左ノ通り有之候

住所

氏名

年齢

此段告訴又ハ告發仕候也

右申立ル處ヲ録シ本人ニ讀聞セタルニ相違ナキ旨申立ルニ付共ニ署名捺印スルモノ也

何警察署又ハ分署
ニ於テ

(告訴告發書式)

年月日

告訴(又ハ)告發人(又ハ)其代人

警部補又ハ
代理巡查

氏名印

千四百四十六

住所

(代人ナル時ハ本人ノ姓名
住所年齢モ書ス)

氏名印

告訴狀

被告人住所身分職業

氏名

年齢

右者自分ニ對シ(其告訴ニ係ルハ)何ノ犯罪有之其始末左ノ如シ
云々

但證據物件何點差出シ候且證人ノ住所ハ左ノ通りニ有之候

住所

氏名

年齢

此段告訴(又ハ)告發仕候也

年月日

檢事(又ハ)司法警察官宛

○(告訴受理ノ節請書)

御請書

何府縣何國何郡何町何ノ誰へ係ル何々ノ廉及告訴候處本日(何々ノ趣御演達相成)(又ハ)何々ノ廉願下或ハ變更増減(御聞届相成リタル旨御達ノ趣)敬承仕候此段御受申上候也

原告人住所身分職業

氏名印

年月日

何裁判所檢事氏名殿

(告訴告發願下等聞届ノ證)

何ノ誰ヨリ何ノ誰へ係ル告訴又ハ告訴願下又ハ何ノ廉變更増減ノ趣聞届候事

何府縣何町

氏名印

何裁判所

年月日

官氏名印

○(巡查現行犯人ヲ捕押ヘタル時ノ告發狀)

(告訴告發書式)

千四百四十七

何年何月何日何時巡廻又ハ立番又ハ見張中氏名不知者ノ報告又ハ往來ノ動搖ニ覺リ何町何某方ニ到リタル處鮮血ノ滴レル刀ヲ携居ルニ付現時捕押云々或ハ何町街道ニ於テ衆人ニ哄傳セラル、ヲ以テ現行犯人ト見認メ直チニ捕押(此時ノ舉動ニ異狀アラハ詳記スベシ)氏名ヲ尋問スルニ何町何某ト申立タリ依テ警部警部補又ハ代理巡査何某ノ前ニ引致セリ

何署詰

巡査 氏名 印

年月日

●福岡縣ヨリ官吏告發ノ儀ニ付司法省ヘ伺 明治十六年 九月廿七日

官吏職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪アルヲ認知又ハ思料シタル時相當ノ官吏ニ告發スヘキハ治罪法第九十六條ニ於テ命令アル儀ニ有之候然ルニ告發後若其被害人罪トナラサル場合其損害ノ償ヲ要ムルモ法律ノ命令ニ依リ職務ヲ以テ爲シタル者ナレハ其要償ノ義務ヲ有セス同法第十七條ニ準據スヘキ者ト被存候得共同條ニハ檢察官又ハ司法警察官ト指定シ一般官吏ニ適用スルノ明文ト難認候條爲念一應相伺候也

指令 明治十六年 十月九日

伺ノ趣治罪法第十七條ニ掲載シタル官吏ハ均ク要償ノ訴ヲ受ケサル儀ト心得ヘシ

○(被告人潜匿ニ付家宅搜索調書)

住所身分職業

氏名

右ハ何所ハ潜匿シタリト思料シタルニ付戸長某若シハ隣佑甲某乙某ノ立會ニ依リ何月日時ヨリ何時迄室内何々等ヲ搜索シタル處何處ニ於テ被告人又ハ證人何某ヲ取押ヘタリ又ハ發見セシハ爾時 遂ニ何某ヲ發見セス依テ調書ヲ作り立會人共ニ署名捺印致候也

年月日

巡査 氏名 印

立會人 氏名 印

(對照)(治) 第三百三十三條 第三百三十四條

(太司) 明治十四年九月 第四十六號布告

○(被告人訊問調書式)

何年何月何日何警察署又ハ分署ニ於テ被告人何某ニ對シ訊問ヲ爲ス左ノ如シ

問 汝ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ申立ヘシ

答 云々

問 汝ハ當所轄内ニ於テ違警罪ヲ犯セシコトナキヤ

答 云々

問 汝ハ何年何月何日時何處ニ於テ何々ノ事ヲ爲シタルニ相違ナキヤ

[告訴告發伺指令] [家宅搜索調書式]

答云々

問 汝云々

答 云々

右讀聞セタル處相違ナキ旨申立ルヲ以テ共ニ署名捺印スル者ナリ
(被告人ヨリ書面ヲ以テ犯罪事件)
(ヲ申立ルルキハ此調書ヲ用ヒス)

年月日

(被告人代人ヲ以テ白狀スルキノ書式)

此書式ニ違フト雖モ被告人ヨリ隨意ニ差出シタル書面
本書式ノ旨意ニ適合スル者ハ受理スルモノトス

(被告人)住所身分職業

被告人 氏名 印
警部補又ハ 氏名 印
代理巡查

氏名

年齢

自分儀何年何月日時何所ニ於テ何々ノ所爲ニ及ヒ違警罪ヲ犯シタル段恐入候就テハ本件ニ
付何住所何某ヲ代人トシテ差出シ候間相當ノ御處分被成下度候也

右

年月日

氏名 印

(刑事裁判言渡ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得ルノ件)

○第四十五號 明治十四年九月 布告

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アルキハ原裁判所ニ於
テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ若シ豫納スルコト能ハサルキハ控訴又ハ
上告ヲ許サズ

(對照) ○第三百三十八條ヨリ

第三百四十六條迄

○第三百六十五條ヨリ第三百七十一條ニ至ル

(司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用ノ事)

○第八十二號 明治十四年九月廿日布告

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當
リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得
但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得
第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要
求スルヲ得

(全上)

〔訴訟調書式〕

〔控訴上告ヲ爲ス者訴訟費用豫納方〕

〔巡查及兵員使用規則〕

(司)丙第十五號 明治十四年十二月達

一治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合ニ巡查ヲ同行
シ又ハ所在ノ巡查ヲ使用スル儀モ可有之候條豫テ可達置候事

(對照) 第五百五十八條ヨリ
第六百六十九條ニ至ル

(布告布達ノ件)

○第百一號 明治十四年十二月三日布告

一本年十一月九十四號ヲ以テ諸省事務章程通則相達候ニ付テハ法律規則ハ布告ヲ以テ發行
シ從前諸省限リ布達セル條規ノ類ハ自今總テ太政官ヨリ布達ヲ以テ發行候條此旨布告候事
但太政官及ヒ諸省ヨリ一時公布スルニ止ルモノハ告示ヲ以テ發行シ諸省卿ヨリ府縣長官
ヘ達ノ儀ハ從前ノ通り

(治罪法中犯人證人等押印ノ件)

(司)丙第十六號 明治十四年十二月達

一治罪法中犯人證人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ捺印爲致候儀ト心得
ヘシ

(對照) (治)第百五十一條

(治罪法中辨護人ノ件) 明治十五年
第一號布告

一治罪法第二百八十一條第一項ニ若シ辨護人ナクシテ辨論ヲ爲シタルハ刑ノ言渡ノ効ナ
カルヘント有之候得共其裁判所々屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辨護人ヲ用ヒサル
モ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

(治罪法中被告人訊問時間延期ノ件)

○第五十三號 明治十五年十一月十三日布告

一治罪法第二百六條第二百七條中二十四時内ト有之處已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内
五日以内ニ於テスルヲ得

(對照) 第二百六條
第二百七條

(治安裁判所ニ於テ輕罪裁判ヲ開キ警部檢事ノ職務ヲ代理シタル件)

(司)丙第三十三號 明治十五年十一月廿五日達

一治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本年當省丁第五號達中檢事處分表雛形ニ準
シ檢事ノ職務ヲ代理スル警部ニ於テ之レヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事ニ差出シ輕罪裁判
所檢事ハ之ヲ取纏メ共ニ差出スヘシ

(全上)

〔布告布達ノ別〕 〔犯人押印〕 〔辨護人心得檢事代理心得〕

○第七十一號 明治十四年十二月廿八日達

一治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク者ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム (對照) (治) 第六十八條 第七十二條 (太司) 明治十四年九月廿日第六十四號布告

○甲第三號 明治十四年三月四日布達

一刑事民事ノ裁判上ニ係リ司法省ニ對シ歎願或ハ再審願ト唱ヘ書面差出候者往々有之候處右ハ固ヨリ法律ニ戻リタルモノニ付自今指令ニ及ハサルハ勿論却下ノ手續ヲモ不致候條此旨布達候事

○甲第四號 明治十四年八月五日布達

一從來人民ヨリ郡區長及戶長ノ職務上ニ對スル詞訟ハ各上等裁判所ニ於テ受理審判致シ候處自今地方裁判所ニ於テ受理審判候事 但受理審判等ノ手續ハ是迄各上等裁判所ニ於テ取扱ヒ來候振合ニ可準候事

○甲第五號 明治十四年十月十日達

一新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候事

○甲第七號 明治十四年十二月二日達

一治罪法第二百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得事

(被告人責付ノ件)

○第四十七號 明治十四年九月廿日布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出シニ應シ出廷セシム可キノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出テ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ (對照(治)第二百十九條)

(司)丙第八號 明治十六年十一月五日達

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通告裁判所ニ相達候條此旨爲心得相達候事

(司)丁第三十壹號 明治十六年十一月五日
保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシムヘキ儀ニ付保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシムヘシ但其言渡書ノ紙尾ニ印刷スルモ妨ケナシ

〔被告人責付保釋取締方心得(無能力者及代人民事擔當人ノ區別) (歎願再審願却下)〕

第一條 治罪法第廿一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ居置ク可キコトハ言テ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サル事由アルキハ其旨ヲ檢事ニ申立許可ヲ受クヘシ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置クヘシ

第三條 代言人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルヲ得ス

第四條 治罪法第廿一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消スヘシ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

○無能力者

一 未丁年者 二 妻タル者 三 白痴瘋癲人 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者

○法律ニ定メタル代人

一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人 二 夫タル者

○民事擔當人

三 白痴瘋癲人ノ保管者 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二 夫タル者 三 白痴瘋癲人ノ保管者 四 雇主但雇人其雇主ノ命シ
(職務上證明ノ爲メ官吏ヲ呼出セシキ取扱方)

(司)丙第三十二號 明治十五年十月廿八日達

總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付キ證明セシムル爲メ其呼出ヲ要スルキハ本年當省丙第十號達ニ準シ取扱フ可シ

(司)丙第十號 明治十五年三月廿二日達

一 治罪法第百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察官ヲ證人トスルキハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出廷セシメ宣誓セシムルニ及ハス書記ノ次席ヲ着イテ陳述セシムヘシ

(達)第五十七號 明治十七年六月十三日達

官吏職務上ニ係リ刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ルト雖モ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得ヘシ但旅費日當ヲ請求シタル時ハ其金額ハ雜收入トシテ大藏省ヘ納付スベシ

(内)乙第拾八號 明治十七年三月廿五日達

一 刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用ノ儀彙ニ指令又ハ訓示及ヒ置候次第モ有之處豫審判

〔職務ニ關スル事件ニ付官吏呼出方〕〔全旅費請求心得〕〔犯罪證據物押方指令〕 千四百五十七

事ノ囑託ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立ケサル儀ニ付之ニ矛盾スル指令及ヒ訓示ハ都テ取消候條支給方ハ明治九年第六十三號公布ニ據ル儀ト可相心得事

(司)丙第一號 明治十七年五月三十日達

犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル儀ニ付甲號福井縣上申ニ對シ乙號ノ通及指令候條爾後戸籍帳等ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ儀ト心得可シ
甲號 明治十七年一月廿九日

裁判所ニ於テ犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ要書差押ヘタル節還付方ノ儀ニ付上申
一犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戸長役場備置ノ戸籍帳又ハ土地建物船舶質買讓渡質買書入與書割印簿等ヲ差押ヘ數十日間還付セサルコトアリ然ルニ戸長役場ニ於テ部下ノ人民生死送入籍其他ノ異同加除ヲ要シ又ハ陸續公證ヲ請ヒ就中質買書入契約ノ如キ義務消盡ニ據リ公證取消ノ儀申出ル者アルモ本簿ヘ照較消印スル能ハサルヲ以テ其旨ヲ具ヘ簿冊下戻方裁判所ヘ照會スルモ某事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ難キ旨回答有之取扱上願ル差支候趣ヲ以テ伺出候向アリ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止ルヘクシテ而シテ該簿冊ニ登記セル其他ノ事件全體ニ關シ行政上取扱上支障

ヲ來シ不都合不勘就テハ斯場合ニ於テハ其必要ノ廉ハ裁判所ニ於テ謄寫シ本書加除スルヲ得サル様掛官契印等ヲ爲シ而シテ簿冊ハ直チニ還付スヘシ様致度御詮議ノ上何分御指揮相成度此段上申候也

乙號 明治十七年五月廿八日

書面上申ノ趣聞届候尤モ裁判所ニ於テ謄寫セシ該書ヘハ戸長之ニ調印スヘシ若シ其謄寫ニ拘ハル内ニ加除等ヲ要スルキハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘク儀ト可心得事

○第廿七號 明治十五年五月廿二日達

一巡查ト等外吏トノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキモノハ巡查ヲ以テ上席トス
(内)番外 明治十二年三月十四日達

一從來盜賊拾置品等處分方區々相成候處自今別項ニ準シ處分スヘシ爲心得此旨相達候事
但從前及指令置候内本文ト抵觸スル分ハ取消候事

一賊ノ拾置品ニシテ一年間事主ナキ者ハ得者ニ給付スヘシ

一止宿人旅籠賃ヲ拂ハス逃去タル跡ニ殘シ置ク物品及ヒ湯屋等ニテ換易セラレタル品ニシ

テ一年間主知レサル者ハ店主並被換者ヘ給付スヘシ

(司)丙第六號 明治十四年三月四日達

〔巡査ト等外吏トノ席次〕〔盜賊拾置品處分方〕

贓物等官ニ於テ送致中途又ハ領置中遺失及ヒ盜難ニ罹リタルハ賠償處分ノ儀ニ付甲五號ノ通り岩手縣ヨリ太政官ヘ伺ノ上乙號之通及指令候條之ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候

(甲號) 領置中ノ金品盜難等ニ罹リタル處分方ノ儀ニ付司法省ヘ伺

一竊盜等ノ贓金品及罪囚ノ所持金ヲ官廳ニテ領置中盜難ニ罹リ其盜犯捕ニ就クモ資力ナキ

件ハ固ヨリ事主ノ損失ニ歸ス可キ筋無之ニ付官之ヲ辨償ス可キ哉

一前條盜難ニ罹リタルノ形跡明瞭ニシテ盜犯未タ捕ニ就カス又ハ該金品ヲ送致途中遺失シ

タルニ其證據顯然ニシテ未タ得者ノ無之如キハ其監守者ハ相當ノ處分ニ及ヒ事主ヘハ官ヨリ之ヲ辨償ス可キ哉

右處分方ニ疑議ヲ生シ候ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

(乙號)指令 兩條共同之通 明治十四年三月三日

●長崎縣ヨリ盜難ニ罹リタル物品處分方司法省ヘ伺 明治十六年八月三十日

爰ニ數種ノ物品盜難ニ罹リタル者數日ヲ經テ其物品ヲ拾得又ハ他人拾得テ之ヲ届出タル場合ニ於テ司法警察官ハ本犯誰タルヲ知ルニ由ナク到底就捕ノ目的ナクシテ假渡ヲナスモ結局事主ノ迷惑ニ相成ヘクト思料スルカ又ハ物品數十日ヲ經過スレハ腐敗ノ恐レナル者ト見認ムルキハ其物品ノ數及價額品類等詳細登錄シ置キ之ヲ他日ノ證據物トナシ物品ハ直チニ事

主ヘ下渡候テ不苦哉此段相伺候也

指令 伺之通 明治十四年九月十八日

●栃木縣ヨリ犯罪ニ關スル物件處分方司法省ヘ伺 明治十六年九月八日

贓拾品中贓物其他犯罪ノ證據トスヘキ物件アリ警察官ヨリ之ヲ檢事ニ送致セシメ犯人未タ捕ニ就カスシテ公訴期滿免除ノ期限ヲ經過シタルキハ其物品ハ行政官ノ處分ニ屬スル者トセハ前願ノ物品ハ勿論犯罪捜査ノ爲メ檢事ニ於テ直チニ勾收シタル物件中事主分明ナル者ニシテ期滿免除ノ期限ヲ過キタルモノモ檢事ヨリ警察官ヘ引渡シ相成ヘキ筋ニ可有之哉此段至急御指揮ヲ仰キ候也

指令 伺之通 明治十六年九月十九日

(司)丙第廿四號 明治十五年六月二十六日達

一犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉輾シテ犯人ノ手ニアリ及ヒ沒收スヘキモノ若クハ證據ノ爲メニ官ニ領致シ置クニ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ依リ裁判言渡アル迄其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クヲ得ヘシ

(司)丙第六號 明治十八年七月廿八日達

一沒收物件處分ノ義ニ付左ノ通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御裁令相成候條自今處分方心得

〔贓品管品處分伺指令〕

ノ爲メ此旨相達候事

●沒收物件處分之儀ニ付伺

一 刑事裁判上沒收ニ係ル物件ハ破壊破毀(燒棄分)之後若シハ原形之儘總テ公賣ニ付シ其代金ハ雜收入トシテ國庫ニ納付ス可キノ規則ニ有之候處今般警視總監大迫貞清ヨリ別紙之通上申相成候因テ審按スルニ犯罪ノ用ニ供シタル器具ニシテ異種ニ屬スルモノ、如キハ警察官ニ於テ豫テ其製造法及用方等ニ注意シ置クキハ犯罪捜査上便利ヲ得ルヲ勘カラス犯迹ニ因テ使用ノ器具如何ヲ推知シ隨テ犯罪ノ誰タルヲ發見スルノ場合亦之レナシトセサレハナリ且右異種ニ屬スル器具ノ如キハ其儘人民ニ私有セシムルキハ其危險測ル可カラサルヲ以テ必ス先ツ破壊スルニ非サレハ公賣ス可カラサルモノトス已ニ之ヲ破壊センカ餘ス所ハ唯其原質物ノミ之ヲ公賣スルモ當リ手數ヲ煩ハスノミニシテ巨額ノ收入ヲ得難キヤ明瞭ナリ就テハ自今檢察官ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件ノ異種ニ屬スル者其他警察上注意ヲ要スルモノト認メタルキハ之ヲ警視廳若シハ警察署ニ交付シ保存セシメ候様致度右ハ雜收入ニテ關係候儀ニ付一應相伺候條至急何分ノ御指令相成度候也

明治十八年六月九日

司法卿伯爵山田顯義

太政大臣公爵三條實美殿

指令伺ノ通 明治十八年七月六日

犯罪ノ用ニ供シタル器具之儀ニ付上申

一 犯罪ノ用ニ供シタル器具ノ種類如何ヲ詳知スルハ犯跡鑑定等警察上最モ必要ノ事ニ付爾後其異種ニ屬スルモノハ之ヲ蒐集シテ當廳ニ保存致度就テハ當地方各裁判所ニ於テ沒收物品ノ内右等ノモノ有之節ハ其都度當廳ニ差廻候様御達置相成度此段上申候也

明治十七年十二月十五日

警視總監大迫貞清

司法卿伯爵山田顯義殿

●滋賀縣ヨリ治罪法ニ關スル疑義司法省ニ伺 明治十八年八月廿一日

一 町村戸長疾病其他事故アリ用掛リ又ハ筆生等ニテ戸長ノ職務ヲ代理シ事務執行中輕罪又ハ重罪アルヲ認知シタルキハ治罪法第九十六條ニ依リ官吏ノ資格ヲ以テ告發スヘキ哉又前條ノ場合ニ於テハ同法第十七條ニ準シ損害要償ノ責ナキ哉ト明治十六年九月八日付德島縣ヨリ御省ニ伺出タルニ同年十月五日付御指令第一條ニ職務上ニ於テハ告發ノ責任ナシト爲スヲ得サルモ治罪法第九十六條ニ依ルヘキ者ニアラス通常人民ト同一ノ手續ヲ以テ告發スヘシ第二條前條指令ノ通リタルモ職務上ニ係ル者ハ伺之通トアリ右第一條指令ニ告發ノ責任ナシト爲スヲ得サル云々トアル上ハ即チ戸長同様告發ノ責任

〔沒收物件伺指令〕

アルモノト思量ス又第二條御指令ニモ職務上ニ係ル者ハ伺ノ通リトアリ是亦戸長同様ナルニ獨リ告發ノ手續ニ至ツテ一般人民ト同一ナラシムルハ元來其身分官吏ニ準スヘキモノニアラサル故カト存候得共戸長ノ職務ヲ代理執行中ニ告發スル次第ニテ其書面ニモ戸長代理ト署名シ一般人民同様ノ手續ヲ以テ告發セシムルハ少シク穩當ナラサル様相考候其他縣廳並警察署郡役所等ノ無等用掛即チ備ト同者ナリ等ニ於テ各上官ノ命令ヲ奉シ應内又ハ出張先キニテ職務執行中犯罪アルヲ發見シタル場合モ其告發ノ手續ニ至リ一般人民同様ノ手續ニ據ラシムルハ職務上其犯罪ヲ發見シタルヲ證明スルニ甚不都合ノ廉有之様存候如何相心得可然哉

指令 明治十八年十月二十四日

伺之趣用掛筆生ノ如キモ官吏ノ行フヘキ職務ヲ行フハ官吏ト同視ス可キモノニ付其長官ノ職務代理中ハ治罪法第九十六條ニ從フ可キモノトス

●水戸始審裁判所檢事ヨリ裁判管轄ノ儀ニ付司法省ヘ伺 明治十八年十月一日

一 科料勾留ニ處ス可キモノ取扱ヒノ儀ハ明治十四年第七十二號同年第八十號布告及ヒ明治十七年第四二一六號内訓等ニ資リ明治十五年一月一日前後御發布法律規則ヲ區分シ當應若クハ地方警察署分署ニ於テ處分シ來リ候處本年第三十一號達違警罪即決例御發布正

式ノ裁判ハ治罪法ニ從ヒ處辨相成候就テハ科料罪ノ儀ハ自今總テ同裁判所ノ管轄ニ歸シ隨テ右七十二號布告第七條ハ自然消滅候儀ト相心得可然哉

指令 明治十八年十月二十四日

一 伺ノ趣明治十五年已前頒布ノ法律規則中拘留科料ノ刑ニ該ルモノハ仍ホ從前ノ通十四年第七十二號公布ニ依リ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

第三纂

一 外交諸規ノ部

○不開港場規則 明治三年二月廿九日布告

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻ノ通リ被仰出候間此旨相達候事

別紙

外國貿易之儀ハ神奈川港ヲ初メ大坂兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賣トモ右場所ニ於テ取引可致處不開港場ニ於テ密商イダシ候哉ノ趣相聞ヘ以之外ノ事ニ候右ニ付テハ先達テ御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付キ向々ニ於テ厚ク可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙ノ場所ニ至候テハ取計方不相辨モノモ可有之或ハ難船救助ノ筋ト入混シ難船人ヘ對シ不親切ノ取扱ヒイタシ候テハ御交際上ニ差響キ候儀ニ付キ夫是以テ今般猶又廉々別紙ノ通心得方被仰出候依テハ府藩縣ニ於テ取締不行届其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致候儀ハ假令其事不仕遂候共當人並ニ其支配タル者迄急度御咎可被仰付候尤モ吟味ノ上其土地管領ノ者同意致シ居候歟又ハ心得ナカラ見道シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々ニ於テ取締ノ儀猶一層行届候様可致候事

一 外國人之儀ハ自己相對テ以テ雇入候儀不相成候者兼テ御布令ノ通ニ候得共諸學科又ハ國地開發或ハ西洋形ノ船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニ依テ御開届可相成候間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以テ東京外務省ヘ可願出其上御印章御渡可相成候尤モ御印章所持ノ外國人ハ何レノ向ニテモ御國人同様相心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘク候尤モ諸場所ニテ右御印章相改メ可申萬一御印章所持不致外國人有之節ハ御許容不相願私ニ雇入候筋ニ付内地通行不相成候ハ勿論竊ニ隠シ置キ相顯ルニ於テハ急度御沙汰ノ品モ可有之間心得違無之様可致事

午正月

太 政 官

追テ別紙條目ノ儀ハ外務省ニ摺モノ有之候間不足ノ向ハ何部ニ而モ同省ヘ申立可受取候事

條目

不開港場取締心得方規則

一 何レノ濱邊又者港浦オイテ西洋形之船入津候ハ、時刻ヲ移サス直繰湊役人役人不居合場ヨリ可其船ヘ乘組入津之趣意可相尋候事

但言語不通ニ而十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イヘン候儀

〔不開港場規則〕

甚少候間其大意丈ケ和語手眞似ニテ相分可申候事

- 一尋問之上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求メ候タメ入津之儀ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長崎新潟函館迄之里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々ヲリトモ前文開港場之内ニ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ候ハ、無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當之分丈渡遣シ代金可受取事

但シ金高品數ハ勿論船碇泊之日數刻限等委細相ヒ認メ届出可申事

- 一其船之國名船名船主之名書付ニテ承リ糺スヘキ事

但船名者多ク船之艦ニ横文字ノ摺書ヲ認メ有之モノニ付右字樣寫取置ヘキ事

- 一船ニ引上ケ有之國旗并ニ船主之旗等總而目印ニ可相成モノハ其雛形寫取可差出事
- 一關乏之品相渡候上出帆遲々致候様子ニ候ハ、早々出帆候樣催促可致事
- 一御免許之上海岸測量ノ爲メ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隠レ洲有之場所等差示可遣尤モ御免許之船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事
- 一軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船風帆船共總而船形大小トモ取糺相届可申事
- 一軍艦ニ候ハ、大砲之備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサルモノニ而モ相知レ可申

軍艦ハ別而何事モ禮儀ヲ正シ不敬之取扱イタサ、ル様可心掛候事

- 一薪水食料等船中必用之品之外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ一切賣渡候事不相成萬一利慾ニ迷ヒ賣渡候者有之後日相顯ハル、ニ於テハ吟味之上屹度御答可有之事

- 一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候トモ買求候儀一切不相成萬一竊ニ取引イタシ候節ハ前同斷御答有之事

- 一濱邊ニ近キ村里之モノ共其濱邊之モノ共内々外國人ト荷物ヲ取引致シ候様子ニ候ハ、其支配カ又者開港場へ可申立時宜ニヨリ御賞可有之事

- 一難船ニ無之食料關乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定而其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速ニ探索之上彌密商イタシ候ニ相違無之候ハ、雙方トモ差シ押外國人者引留置御國人ハ入牢手鎖等其土地相當之仕置ニイタシ早々申立差圖可受尤モ横文字之書付類後日之證據ニ可相成品ハ始末イタシ可置事

但シ各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等へ參リ密商シ或ハ密商ヲ企テントイタシ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メシキコドルヲルコテ千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様之企致シ候モノ於有之者兼而御布告之通其品取上

〔不開港場規則〕

過料トシテ命千兩御取上之事

千四百七十

一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乗組居萬一商買取引等致シ度段申立候歟或ハ其乗組御國人手引ニテ商買致シ候様ニ相見候ハ、篤ト様子ヲ探索致シ嚴敷拒絕可致萬一仕途候跡ニ候ハ、其事實穿鑿之上早々其筋へ可申立事

但シ本文西洋形商船ニ不限御國通例之地乗船ニ而西洋人乗組居候節モ同様之事

一外國船ヲ御國人トモ借り受開港場ヨリ開港場へ荷物運輸之儀ハ願之上御開届可相成筋ニ候得共不開港場へハ決而御開届無之儀ニ付萬一不良ノ徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致シ度坏ト申唱へ候トモ一切差許申問敷事

但シ地方饑饉等ニテ不得止事外國船相雇不開港場へ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其節ハ府藩縣之知事ヨリ其沙汰可有之且乗組人之内開港場之役人爲取締之立會居候筈ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事

一湊へ碇船イタサス沖繫リ又ハ其近海ニ於テ雙方ノ船出會致密商候様子ニ候ハ、是又早々穿鑿可致事

一不開港場へ外國船碇船イタシ薪水食料而已賣渡候儀ニテ聊カ心障リ之事無之トモ其都度相届可申事

難船救助之事

一難船ニ而困苦之體ニ相違無之節ハ其困苦ノ輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可遣事

但シ船ニ乗組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場へ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事

一船之修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致可遣事

一乗組人之内溺死之尸有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハ、墓所内都合ヨキ場所へ埋葬可爲致事

一洋中ニナイテ大船破碎シ乗組外國人之内猶船具等ニ取付生殘リ居候體見當候ハ、早々我船へ助ケ載開港場へ送届候歟又者其土地支配之者受取海陸便宜ヲ見計開港場へ可差送事

一難船漂着候ハ、早々外務省歟又者開港場ノ内可成里敷近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員之出張ヲ申立差圖可受事

一難破イタシ難船用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添之者可成餘計ニサシ出最寄之開港場へ可送届事

一困難之船隠レ洲等ニ乗懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船滓又ハ鐵具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又ハ村方ニ而取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文ノ書面取置へ

〔不開港規則〕

千四百七十一

キ事

千四百七十二

一難破之船滓其マ、差置外國人ハ一旦引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間船
其外之モノトモ預リ置キシレ候様外國人ヨリ相頼候トモ容易ニ引受申間敷彼方ヨリ遮而
申立候ハ、其筋へ伺之上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不申及跡々ニテ
異論不差起様何事ニモ書面可取置事

一(明治八年五月四日第七十號布告ヲ以テ左ノ如ク本項ヲ改正ス)

一沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付出發ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船
主ニ屬スヘカラサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕
拂候事ト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添
へ管轄府縣ヨリ大藏省へ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致
サ、ル部分ハ暫シ官費ヲ以テ採替置キ船主滯留中ナラハ其趣船主へ心得置セ若シ船主其
他乗組ノ者既ニ困難場引拂後ナルキハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨ
リ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ
可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置是又前文同様開港場ノ府
縣長官へ可相廻事

一難船之船具又ハ沙濤之荷物或ハ船滓等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當ノ價ヲ以
テ買求メ候儀不苦尤モ其段可相届事

一難船ニ而永々滯留可相成様子ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ警衛之モノ可差出事

一乗組人無之西洋之難破船海岸へ漂着候ハ、其様子委細ニ可届出事

一總而外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ證書之類ニ至ル迄和文ニ而者難用立候ニ付彼國之
文字ニ而爲相認書キ判又ハ調印爲致置クヘシ和文ニ而者後日之證ト難相成候此方ヨリ可
差出證又等有之候ハ、和文ニ相認メ右へ調印イタシ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知
西洋文へ調印ハ勿論名面認載候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得
事

一右條目ニ有文伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省へ差出候
事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場へ相届候上猶又外務省へ可申立事
右之通

○内地旅行免狀ノ式

明治八年七月十八日達
(内)丙第四十四號

本月二日相達候外國人内地旅行願出候節相渡候免狀裏書示令ノ文字ヲ心得ト相改候且省使
雇入外國人右同斷ノ節相渡候免狀別紙ノ通り改正候條此旨爲心得相達候事

〔外國人内地旅行免狀ノ式〕

千四百七十三

別紙

第 號

外國人旅行免狀

國籍

姓名

身分

寄留地名

旅行趣意

旅行先及路筋

旅行期限

右ハ、ハ、ハ、ノ保證ヲ以テ前書掲載ノ場所へ旅行致度旨申立去許候條道筋無故障相通可中事

明治 年 月 日

裏書

外 務 省

○内地旅行外國人心得

- 一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ
- 一 此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ス出立スヘシ
- 一 本文旅行日限ヲ定ムルト雖モ途中事故アリテ期限内ニ歸着スル能ハサル外國人ハ豫テ郵便ヲ以テ其國公使ヲ經テ其事故ヲ外務省ヘ申立ヘシ
- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤モ長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其國公使ヲ經テ外務省ヘ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途中ト雖モ巡查又ハ區戸長ヨリ免狀ノ檢査ヲ請フキハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナスモ之ヲ示サ、ル外國人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ
- 一 此免狀ハ一人一己ノ用ヲ爲シ他人ヘ貸與フルヲ許サス
- 一 此免狀ヲ受テ内地ヲ旅行スル外國人ト雖モ各地方ニ於テ日本人民ト賣買取引及ヒ諸約定ヲ爲スヲ許サス
- 一 此免狀ニヨツテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス
- 一 遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル外國人ト雖モ内地ニ入りテハ發砲遊獵スルヲ許サス
- 一 旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル殘リノ場所へ旅行セント欲スル外國人ハ

〔内地旅行外國人心得〕

假令許可セル場所ト雖モ一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受クヘシ
一本文並ニ此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其保證シタル公使ヘ
告訴スヘシ

計十一款

○官民雇入ノ外國人從者旅行免狀ノ式 明治八年十二月七日達
内乙第百六十號
官民雇入ノ外國人職務上ニ付各地方へ出張外國人ヲ從者ニ召連候節是迄主從一紙ノ免狀相
渡來候處自今時宜ニ依リ別紙體裁ノ免狀從者へ相渡候儀モ可有之此旨爲心得相達候事
別紙

第何號

何省府縣雇

朱
割印

何國人

姓名召仕

何國人

右ハ何省府縣何國人誰同省府縣事務ヲ以テ何所ヨリ何所へ出張ニ付同所へ從行ノ

儀聞届候條道筋無故障相通申可事

明治 年 月 日

外務省

朱
印

(内)乙第百五十九號 明治八年
十二月達

外國人之内身分等級等有之者内地旅行之節ハ其都度相達來候處自今別紙之取扱ヲ要セサル
モノハ一々不相達候條免狀ニ記載有之身分ヲ證認シ不都合無之様可取計旨管下其向々へ相
達可申此旨相達候事

○居留地外住居ノ外國人ニシテ他人同居禁制 明治九年三月三十日
達内乙第百四十二號

外國人居留地外ニ住居ノ儀ハ是迄雇人ニ限リ特別許可有之其同姓ノ親戚及外國人婢僕ハ届
出ノ上同居爲致差支無之儀ニ候處其他ノ外國人ヲ一時ノ止宿ニ非スシテ同居爲致候儀ハ不
相成候條人民ノ内外國人ヲ雇入候者へモ夫々達方可取計事

○第三十八號 明治十二年
十月九日達

〔外國人從者免狀ノ式〕〔外國人他人同居禁制〕〔全宿泊心得〕

旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行ノ節疾病其他不得止事故アルハ旅籠渡世ノ者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦尤モ同時ニ必ス其事由ヲ詳記シ戸長役場へ可爲届出若シ滞留數日ニ及フキハ七日毎ニ爲届出候様可致事

(神)庶第百十三號 明治八年七月十七日達

外國人内地々質物産等ノ學術研究或ハ病氣養生等無余儀事故ヲ以テ内地旅行致候節沿道宿驛旅亭止宿ノ節家主免狀檢査不致者モ有之且外國人ノ内免狀檢査相拒ミ候者モ有之哉ニ相聞候ニ付今般外務省ニ於テ通行免狀表面別紙雛形ノ通改正相成候條宿驛旅籠渡世ノ者共ニ於テ兼テ相心得外國人宿泊ノ節ハ右免狀一見ヲ了シ免狀ノ番號並ニ國名姓名宿帳ニ記載シ置後日取調ノ節胡亂ノ申出無之様可致尤モ免狀改方等ニ付外國人身柄ニ應シ夫々相當取扱可致旨内務省ヨリ被相達候間得其意免狀檢査ノ際不都合無之様注意スヘキ事

(内)丙第六十四號 明治八年十一月十二日達

外國人遊歩規程内市街村落ニ於テ止宿ノ儀ニ付第百八十九號御達ノ趣モ有之候ニ付テハ外國人病氣養生ノ爲メ旅亭へ長ク止宿ノ儀家主ヨリ都度々々届出ルキハ其應ニテ承リ置クヘシ若シ外國人止宿ヲ名トシ地所家屋ヲ貸借スルカ商買取引スルカ又ハ其事ヲ企ル趣相顯候節ハ場所立拂ハセ可申事

(神)甲第五十一號 明治十年五月二日達

外國人止宿セシメ候節家主ヨリ戸長或ハ扱所へ可届出云々八年^{十一月}第二百二十九號ヲ以テ外國人遊歩規程内區戸長へ相達候處自今旅籠渡世ノ者ハ勿論右渡世ニアラスト雖モ僻村ニシテ日暮不得止節止宿セシムル者ハ都テ其所轄警察署又ハ分署へ可届出若シ病氣療養等ニテ旅籠渡世ノ者長ク滞宿セシムルニ於テハ日數七日毎ニ全署へ可届出事
但シ旅籠渡世ニアラストシテ病氣療養等ノ外國人ヲ數日滞宿セシメントスル者ハ縣廳ノ許可ヲ受ケタル后尙ホ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘク事

(神)甲第百廿一號 明治十一年九月十四日達

外國人遊歩規程内ニ於テ外國人ヲ止宿セシメ且届出方ノ儀ニ付明治十八年^{五月}本縣甲第五十一號同年^{七月}同甲第七十三號及本年九月同甲第百十六號ヲ以テ布達致置候處自今旅籠渡世ノモノニ非スト雖モ兼テ懇親ノ外國人ヲ招泊セシメ又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故アツテ宿泊セシムルハ苦シカラサル旨其筋ヨリ達有之候條其都度届出方ノ儀ハ従前ノ通り可相心得事

○内務省へ伺濟 明治八年四月二十三日

御通輦ノ節外國人取扱心得

〔外國人止宿取扱方〕〔御通輦ノ節外國人取扱方〕

第一條 通行ノ外國人道幅狹隘ニシテ儀仗御差支ノ場所ニ於テハ回避候様可申論尤モ御差支ニ不相成場所ハ歩行スルモ差構ニ及ハス

第二條 車馬ニテ疾驅スルハ素ヨリ之ヲ論シテ徐行セシメ道路幅員ニ應シ儀仗ノ御差支ニ不相成様讓避通行セシムヘシ

第三條 道路狹隘ニシテ儀仗ノ御差支ニ相成候場所ニテ御通輦ノ儀申論シ回避セシメントスルモ彼肯セサルキハ穩カニ引留置御通輦竟ルヲ待テ放遣スヘシ

第四條 萬一車馬或ハ歩行等コテモ誤テ儀仗ヲ衝突スル者ハ差押一應聞糺シ然ル上全ク御通輦ヲ辨ヘサル旨ノ儀ニ候ハ、宿所ヲ訊問シ名刺ヲ取り其儘放遣スヘシ

但不敬ノ所業アリテ難差置場合ニ於テハ其名刺ヲ以テ上官へ申告シ上官ハ本廳へ具狀ノ手續ヲナスヘシ

第五條 公使等ノ如キハ勿論彼レニ於テモ其心得アルヘキハツナレモ若シ辨ヘサルキハ御通輦ノ趣告知スヘシ

(太)第四十號 明治十一年九月九日達

明治八年十一月第百八十九號ヲ以テ外國人遊歩規程止宿ノ儀ニ付相達置候處自今旅籠渡世ノ者ニアラスト雖モ兼テ懇親ノ外國人ノ招泊セシメ又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故アツテ

宿泊セシムル者若シカラス尤モ戸長又ハ扱所へ届クルハ前達ノ通可相心得事

○外國人銃獵免狀取扱條例 明治十一年十月十五日 (丙)第五十三號達

第一條 銃獵免狀ハ別紙離形ノ通り相制シ凡積ヲ以テ當省勸農局ヨリ相渡スヘシ

第二條 免狀下渡ノ節ハ外國人ヲシテ別紙離形ノ通條約書ニ記名調印セシメ各地方長官東京ニテハ警視本署長官モ同ク記名調印シテ之ヲ該廳ニ留置キ免狀渡方取計フヘシ

第三條 出獵スルキハ必ス此免狀ヲ携帯スヘシ若シ銃獵シ得ヘキ場所或ハ其近傍ニ於テ其筋ノ日本官吏ノ求メアルキハ速ニ免狀ヲ示シ點檢ヲ受クヘシ

第四條 免狀渡濟ノ上ハ總計表ヲ製シ翌年七月限り當省勸農局へ差出スヘシ

第五條 免狀申受ス銃獵セシ者有之節ハ該獵者ヲ取押へ成丈ク證據取置キ其始末詳細領事へ訴出ヘシ

第六條 銃獵免狀ヲ領受セシ者ハ條約規程内ハ自他管内ヲ問ハス總テ免許ノ効アルモノトス

第七條 免狀附與スル節ハ免狀料トシテ金拾圓ヲ收入スヘシ

但シ毀失等ニヨリ免狀再渡ヲ乞フ時ハ手数料トシテ金廿五錢ヲ收入スヘシ

(免狀離形)

〔外國人旅籠渡世ニ非サルモ宿泊許可〕〔全銃獵〕

明治十三年
丙第六十七
號ヲ以テ改
正

日本帝國鳥獸獵免許ノ證

國名
姓名
年齡
住所

表

此免許ハ當銃獵期即チ明治十一年十月十五日(千八百七十八年十月十五日)ヨリ
 明治十二年四月十五日(千八百七十九年四月十九日)迄銃獵免許ノ効アルモノト
 シ金十圓ヲ受取リ附與スルニヨリ左ノ箇條ヲ守ルヘシ

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サス且只遊興ノ爲メニ妄リニ食用ニ供セ
 サル禽獸ヲ銃殺ス可カラス

第二條 常ニ左ノ場所ニ於テハ銃獵ス可ラス即チ都府市街ハ勿論衆人群集及ヒ
 銃丸ノ達ス可キ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約期外及ヒ禁獵制札
 建設ノ場所

但シ制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置ク
 ヘシ

作物植付アル及ヒ社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所

第三條 出獵スルハ必ス此免許ヲ携帶シ若シ日本官吏ノ求メアルハ速ニ免
 狀ヲ示シテ點檢ヲ受クヘシ

此免許ハ他人チシテ使用セシムヘカラス

第四條 前書ノ條項ニ違背スル時ハ洋銀十弗ヲ拂フヘシ然ル上ハ此免許ハ無用
 ノ廢物トナルヘシ

第五條 此免許ハ明治十二年四月十五日(千八百七十九年四月十五日)後日數廿
 日以内ニ最初受取リタル官廳ニ返納スヘシ

何府縣廳印

裏

英

文

佛

文

〔外國人銃獵免許取扱條例及免許證形〕

千四百八十三

定約

某府縣長官(東京ニ於テハ警視本署長官)ヨリ何國人民或ハ臣民某ニ本日免許料トシテ金十圓ヲ受取リ別紙免狀ヲ附與セシコ付右何某左ノ條々ヲ遵守スヘキ旨ヲ爰ニ約定ス

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サス且只遊興ノ爲メニ妄リニ倉用ニ供セ

サル禽獸ヲ銃殺ス可カラス

第二條 常ニ左ノ場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ

都府市街ハ勿論衆人群集及ヒ銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約期程外及ヒ禁獵制札建設ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

作物植付アル及ヒ社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所

第三條 出獵スルキハ必ス此免狀ヲ帶携シ若シ日本官吏ノ求メアルキハ速ニ免狀ヲ示シ點檢ヲ受クヘシ

此免狀ハ他人チシテ使用セシムヘカラス

第四條 前書ノ條款ニ違背スルキハ洋銀十弗ヲ拂ハスヘシ然ル上ハ此免狀ハ無用ノ廢物トナルヘシ

第五條 此免狀ハ明治十二年四月十五日(千八百七十九年四月十五日)後日數廿日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

明治 年 月 日

何縣長官記名調印
願人 何 某手記

支那人免許證及定約書共本文同様ナリ只裏書ニ支那文ヲ記載シアルノミ依テ錄セス

英 文

佛 文

〔外國人銃獵免狀付與方同指令〕

●兵庫縣ヨリ外國人及ヒ清國人ハ銃獵免狀付與ノ儀ニ付内務省ヘ伺 明治十一年 六月

第一條 外國人及清國人ハ銃獵免狀ヲ付與シタル後水火盜難ニ罹ルカ或ハ毀損遺失等ニテ再渡免狀ヲ請求セルモ免狀ヲ付與シテ更ニ免狀料金拾圓ヲ徴スヘキ哉

第二條 前條果シテ免狀料ヲ徴收スル者ナレバ若シ後日ニ至リテ盜難遺失等ニ係ル免狀ヲ發顯シタル旨ヲ届出尙ホ出獵期限ナルモ再度付與シタル免狀ヲ返納セシメ免狀料ハ返付スヘキヤ或ハ其發顯シタル免狀ヲ返納セシメ再度徴收シタル免狀料ハ返付スルニ及ハサルヤ

第三條 内國人銃獵免狀申受タル後十五日以内ニ廢業シテ免狀ヲ返納スル者ハ税金ヲ返付シ更ニ手数料ヲ徴收スヘキ成規ト雖モ外國人及ヒ清國人銃獵免狀取扱條例ニ於テハ其明文無之ヲ以テ一旦免狀ヲ付與シタル上ハ假令十五日以内ニ廢業スルトモ免狀料ハ返付セス可然哉

右ノ件々相伺候也

指令 明治十一年 七月

第一條 再渡ノ節ハ免狀料更ニ收入候儀ト可相心得事
第二條 盜難遺失ノ免狀發顯候節ハ該免狀斷裁取計免狀料返納ニ及ハサル事

第三條 免狀下付後十五日以内ニ廢業申出候共免狀料返付ニ及ハサル事

(神)明治十五年六月第三十八號ヲ以テ廿一條以下廿八條迄追加アリタリ 廿一條廿二條ハ方追加ニ係ルヲ以テ略之 通常遺失物取扱

○外國人ニ係ル遺失物取扱心得

第廿三條 外國人遺失物ヲ拾得シ及ヒ埋藏物ヲ掘得テ届出タルモハ遺失物取扱規則第二條ニ依リ處分スルモノトス

第廿四條 本邦人ノ拾得シタル物品ニシテ外國人ヨリ遺失シタル旨申出タルモハ詳細聞ルシ相違ナキモノト認ムルモハ直ニ物品ヲ相渡シ受領證ヲ徴シ且遺失物取扱規則第四條ヲ指示シ得者ヘ通知スルモノトス

但 滿一ケ年後外國人ヨリ遺失セシ旨申出ルモ受理セサルモノトス

第廿五條 得者遺失者共外國人ナルモハ又前二條ニ同シ

第廿六條 外國人拾得セシ物品領置後一年内物主ナクシテ得者ヘ給付スルモハ其國領事ヘ交付ノ爲メ該物品ヲ書類ト共ニ警察本署ヘ送付スヘシ

但 外國人ヨリ物品給付ノ期ヲ知り引渡方申出タルモハ直ニ物品ヲ渡シ受領證ヲ徴スヘシ

第廿七條 外國人物品拾得ノ届書ヲ差出サ、ルモハ官吏ノ聞取タル筆記ヲ以テ届書ト見做

[外國人ニ係ル遺失物取扱方]

スモ妨ケナシトス

千四百八十八

第廿八條 此規則第三條第四第五第十一十七十九廿條ヲ除クノ外各條ハ外國人ニ係ル遺失物取扱ニ付テモ之レヲ適用ス

○第廿七號 明治十年三月八日 布告

外國人傭入候節ハ左ノ通り可相心得此旨布告候事

一各官廳ニ於テ外國人雇入候節ハ其國所姓名業務給料住所期限及ヒ繼雇解雇共其時々外務省ニ通知ス可シ

一人民ニ於テ外國人ヲ雇入レント欲スル者ハ其管轄廳ヲ經由シテ前項ノ件々外務省ニ届出ツヘシ

一私雇外國人ヲ其業務等ノ都合ニヨリ居留地外ニ居住爲致度者ハ地方官添書ヲ以テ外務省ニ伺出其許可ヲ受クヘシ

(内)乙第四十一號 明治十六年十月十五日達

本年八月太政官第三十二號ヲ以テ外國人雇入及解雇方等ノ儀達相成候ニ付テハ雇入雇繼又ハ其給料等ヲ増加セントスルキハ其金額事由ヲ詳記シ且解雇又ハ給料ヲ減省スル者ハ其都度届出ツヘシ

(司)丙第壹號 明治十六年三月十二日

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ雇ハレタル内國人ニ對シ發スヘキ合狀ハ明治七年第百廿八號公達ニ據リ公使館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其唯諾ヲ經ルノ手續ハ明治十四年第五拾三號公達ノ旨モ有之ニ付大審院並ニ裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省ニ申出指令ノ上其合狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省ニ申出右唯諾ヲ經ル手續ヲ了シ合狀ヲ執行セシムヘキ義ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

但本文令狀執行者ハ專ラ明治七年第二百廿八號公達ノ旨趣ニ據リ聊カ不都合ノ取計無之様厚ク注意セシムヘシ

○内國人ヲ救助ノ外國人賞與手續 明治十四年六月廿二日 (内)乙第三十號

御國人民不慮ノ困難ニ遭ヒ外國人ノ救助ヲ受ケ候節謝儀等ノ儀各國公使或ハ其本國政府ヲ經由シ兩國交際ノ要務ニ關スル事柄ハ内務省ニ於テ取扱又官民雇或ハ居留地ノ外國人ヨリ自己ノ恩惠ヲ與ヘ謝儀褒賞ノ儀ハ當省ニ於テ取扱候條右區別ニ依リ其都度事由ヲ具シ主管ノ省ニ可申出此旨相達候事

但明治七年當省乙第八十三號達ハ取消候事

○清國朝鮮國在留日本人取締規則 明治十六年三月十日布告

(内國人ヲ救助ノ外國人賞與手續) (清國朝鮮國在留日本人取締規則)

千四百八十九

清國及朝鮮國在留日本人取締規則左ノ通制定ス

第一條 清國及朝鮮國駐節ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以下在留スルヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ五十日以内ニ退去スヘシ若シ期限内退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ル時ハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルヲ得

第三條 保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ尙ホ在留ヲ禁止スヘシ

第四條 退去期限若クハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス

○在朝鮮行歩犯罰則

明治十六年四月五日布告

朝鮮國ニ於テ行歩規程ヲ犯シタル者ハ二圓已上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則

明治十六年十月五日布達

朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則別紙ノ通協議決定ス

別紙

約定シタル朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則

第一條 朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ日本國人朝鮮國ノ法禁ヲ犯シタルハ水陸共左ノ個條ニ照シ取扱フヘシ

第二條 朝鮮國官吏ハ法禁ヲ犯セル日本國人ヲ取押ヘタルハ其罪證ヲ具録シ之ヲ添テ其日本人ヲ最寄開港場ノ日本領事官ヘ引渡シ相當ノ處分ヲ要求スヘシ日本領事官ハ速カコ其要求ニ應シ之ヲ審査シ照律處斷スヘシ但朝鮮國官吏取押ヘ又ハ護送ノ際苛虐ノ取扱ヲナスヲナカルヘシ

第三條 犯罪ト認ムヘキ日本人ヲ海陸孰レヨリ護送スルモ朝鮮官吏ノ勝手タルヘシ但成丈ケ速ニ護送シ事故ナクシテ徒ニ犯罪ヲ其地ニ淹留スヘカラス

第四條 朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ罪ヲ犯セント認ムル日本人ヲ海路ヨリ護送スルハ朝鮮官吏日本人ノ船舶ニ乗込或ハ別船ニ在テ之ノ引來ル俱ニ其便宜ニ任ス如シ陸路ヨリ護送スルハ其日本船ハ逐チ引渡ス迄ノ間ハ地方官ニテ之ヲ監守シ毀失セシムルヲナカルヘシ且其船具漁具其外運搬シ難キ物品ハ目錄ニ作り犯罪ニ添テ之ヲ送付スヘシ

〔清國在留日本人取締規則〕〔同漁民取扱規則〕〔同貿易手續〕

第五條 如シ薪水食糧ヲ得ルカ爲メ又ハ獲タル所ノ魚類ヲ賣買スル爲メ上陸シ上陸ニ於テ其犯罪同行中若干名ノミニ係ルトキハ其若干名ノミニテ此手續ニ依テ護送シ其他ハ之レヲ拘引スルコトナカルヘシ又海上ナレハ其罪犯ヲ除クノ外殘員尙航海ニ堪ユルトキハ朝鮮官吏ハ其罪犯ノミニテ護送シ其他ハ之レヲ放還スヘシ

第六條 此規則ハ實行ノ上更ニ増損スヘキモノアレハ雙方協議改正スルヲ得ヘシ右確實ナルヲ證シ兩國ノ各委任大臣茲ニ記名調印スルモノ也

大日本國明治十六年七月二十五日

大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辦理公使竹添 進一郎印

全權大臣督辦交涉通商事務閣泳穆印

○朝鮮國ト貿易手續

明治十六年十二月七日 第四十號布告

明治十七年二月一日ヨリ明治九年十月第百二十九號布告ヲ廢止シ候條朝鮮國トノ貿易ハ總テ他ノ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ但當分ノ内各開港場ノ外長崎縣下對馬國嚴原山口縣下長門國下ノ關福岡縣下筑前國博多ノ三港ニ限リ朝鮮國貿易ニ關スル日本人所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ積卸ヲ許シ日本形船舶ニ限リ出港手数料トシテ正金壹圓入港手数料トシテ正金貳圓ヲ徵收ス

圓ヲ徵收ス

勅詔新 官民必携 大尾

正	誤
(丁數) 凡例中	(行數) 九
(誤) (此首ニ)	(正) (此書ハ)
六	十二
(牛乳)	(乳牛)
九	四
第一條鐵道ノ上(掛)ノ一字脱ス	
三十六	四
(第五條ハ)	(第五條ハ)
四十一	七
(發)	(發)
五十六	十一
(amber)	(silber)
(hare)	(hare)
五十七	二
(isaw)	(isur)
六十二	十
(屆)	(屆)
六十五	十二
(略符號ヲ)	(略符號ノ)
百十八	十五
(回)	(回)
百廿七	九
▲ノ下段ニ()ヲ脱ス	
百三十	二
(科ス)	(科シ)
全	八
(内)乙第拾一號()ハ衍	
百三十一	八
(鳥)	(獸)

(丁數)	(行數)	(誤)	(正)
百五十四	十三	(互ニノ下)	(相)ノ一字脱ス
全	十五	(可キノ下)	(規程)ノ二字脱ス
百五十五	十二	(免除)	(免狀)
百六十四	十	割註(一日)ノ下	(第六號)ノ三字脱ス
二百四十七	八	(辨償)	(辨償)
二百四十九	九	(十一)ノ下	(條)ノ一字脱ス
二百五十一	十	(却消)	(消却)
二百五十七	十五	(鑑札)ノ下	(料)ノ一字脱ス
二百九十五	八	(匿ノ)	(匿ク)
三百十	五	(財金)	(貯金)
三百八十一	十	(或ハ)ノ下	(代)ノ一字脱ス
三百九十九	五	(九月廿七日)ノ下	(第四十一號)ノ五字脱ス
全	十一	(稅)ノ下	(ハ)ノ一字脱ス
四百	十五	(數罪)ノ下	(ハ)衍
四百八	四	(タル者)ノ下	(ハ)ノ一字脱ス
四百廿四	十四	(直ニ據)ノ下	(リ)ノ一字脱ス

(丁數)	(行數)	(誤)	(正)
四百三十二	七	ノ、スル者ノ下(ハ)ハ衍	
四百三十五	十四	(及ヒ)	
四百四十八	一	(心ノ下)得ノ一字脱ス	
四百六十九	九	(應ノ下(ハ)ノ一字脱ス	
五百廿六	九	(交換)	(變換)
五百五十一	十二	(數位ノ下(ヲ)ノ一字脱ス	
五百五十二	十二	(第一植ノ)	(ヲ)ハ衍
五百七十三	三	(其ノ下)發賣ノ二字脱ス	
全	五	(治番)	(始番)
全	全	(全裁判ノ下)所ノ一字脱ス	
全	九	(各地方東京府ヲ除クニ)ハ「各地方」	
五百八十一	八	(東京府)ノ括弧及割註ヲ付スルノ誤	
五百八十五	初	(署ノ下)名ノ一字脱ス	
六百二十四	十五	(儒)	(儒)
六百二十五	二一	(何會社)社印ハ皆前後氏名印ト位置	

(丁數)	(行數)	(誤)	(正)
六百三十七	初	ヲ同シフスルノ誤植六百二十六丁以下亦同シ	
全	四	(ク印)	(リ印)
六百三十九	四	(ク印)ノ二字ハ衍	
六百五十	十二	(願ノ下)次ノ一字脱ス	
六百五十一	初	(過ク)	(置ク)
六百五十三	十三	(其他ノ)	(其地ノ)
六百五十四	二	(發火)	(發火)
六百六十一	三	(爆發物取締規則)ノ上ニ〇印ヲ脱シ	
六百六十四	初	及ヒ下ニ(明治十七年十二月廿七日)第三十二號布告	
六百八十八	十三	ノ十八字ヲ脱ス	
		割註(明治)ノ下(十八)ノ二字脱シ全	
		(布告)ハ(布達)ノ誤	
		割註(シロ)	(シロ)
		割註(月日)トアルハ(五月二日)ノ脱	

七百二十二	十四	(同字)	(國字)
七百三十二	十四	(タル)ノ下(者ハ)ノ二字脱ス	
七百三十八	十三	(免許)	(免狀)
七百四十四	十四	(氣船)	(氣船)
七百四十七	六	(雜)ノ下(ニ)ノ一字脱ス	
七百七十四	三	(伺割註)明治十六年ノ五字脱ス	
七百八十四	十一	(門戸ハ)ノ下(日没ヨリ一時ヲ經テ)ノ九字脱ス	
全	全	(每夜時ニ)四字ハ衍	
八百五十五	十	頭ニ●ヲ脱ス	
八百六十七	六	(割註明治)ノ下(十八)ノ二字脱ス	
八百七十	十四	割註及十五行目ハ衍	
八百七十一	五	初行ハ衍	
全	全	割註ハ衍	
八百八十九	三	割註ハ衍	
九百五十六	十一	割註ニ(明治十七年)ノ五字脱ス	
九百七十一	十五	(秋田縣)ノ上(廢訴裁判)ノ字ハ	

九百八十四	十二	衍次ノ「館」ヲ(函)ニ改正シ以下順次	
千十	八	繰下ケ	
千十一	十五	(併モ)	(併セ)
千二十四	十五	(著)ノ下(ク)ノ一字脱ス	
千二十五	十	(勘)	(限)
千四十一	十五	割註(開港所)ノ下(應)ノ一字脱ス	
千四十一	六	(徵稅)ノ下(費)ハ衍	
千五十五	六	(退)	(職)
千七十二	十二	(年)ノ下(數)ノ一字脱ス	
千七十二	十二	(官吏)ノ上(〇)行政ノ一箇二字脱ス	
千七十三	六	(戒)ノ下(ヲ)ノ一字脱ス	
全	十二	(依)ノ下(ル)ノ一字脱ス	
千七十四	十五	(許ス)ノ下(者ハ)ノ二字ハ衍	
千七十六	五	(程章)	(章程)
千八十二	三	以下(指令)ヲ脱ス	

(丁数)	(行数)	(誤)	(正)
千九十三	九	(會)ノ下(規則)ノ二字脱ス	千五百五十五
千八十七	四	(書寫) (書寫)	千二百三
全	九	同前	千二百十一
千九十三	六	割註内初項(及地)ノ下(方)ノ一字脱ス	千二百二十七
全	七	ス	千二百二十九
千九十八	初	割註内二項(第)ノ下(十)ノ一字脱ス	千二百五十六
全	二	割註(十四年)ノ四字脱ス	千二百五十七
千一百一	初	(職)ノ下(候)ノ一字脱	千二百六十四
千零八	十一	(決シ)ノ下(テ)ハ衍	千二百六十六
千百十	十一	(雜)ノ下(種)ノ一字脱ス	千二百六十九
千百十五	三	(係)ノ下(ル)ノ二字脱ス	全
千二百二十二	十二	創註()ノ字脱ス	千二百二十九
千二百二十三	五	(セシムル) (セサル)	千三百六十五
千二百二十五	二	(公買) (公賣)	千三百八十四
全	七	(税金)ノ下(ヲ)ヲ脱ス	千三百八十七
		(出ツ)ノ下(ル)ヲ脱ス	千三百九十

(丁数)	(行数)	(誤)	(正)
千六百六十二	二	(聽サ)ノ下(レ)ノ二字脱ス	千四百五十七
千七百七十一	十四	(以)ノ下(テ)ノ一字脱ス	千四百六十一
千二百三	十五	(七論) (勿論)	千四百六十二
千二百十	九	初頭ニ白圈ヲ脱シ(及離婚)三字ハ衍	千四百六十七
千二百十一	三	(六行)ノ一行ハ衍	千四百六十八
千二百二十七	六	(納メス)ノ下(ニ)ノ一字脱シ(凡ソ)ノ二字ハ衍	千四百八十四
全	二	(主ハ) (主ハ)	千四百九十二
千二百二十九	二	割註ノ下(ニ)ヲノ一字脱ス	正誤畢
千二百五十六	十七	割註(明治十)ヲ脱ス	
千二百六十四	九	(十二行)ハ衍	
千二百六十六	九	白圈ノ下(地券)ノ二字脱ス	
千二百六十九	六	(名)ノ下(前)ノ一字脱ス	

(丁数)	(行数)	(誤)	(正)
千二百九十九	十一	(指令文) (伺)ノ趣前段申出ノ通寶ノ二十字ヲ脱ス	千三百六十四
千二百九十四	五	(至)ノ下(ル)ヲ脱ス	千三百六十五
千三百一	初	(スル)ノ下(ノ)ヲ脱ス	千三百八十四
全	二	(申)ノ下(報)ヲ脱ス	千三百八十七
千三百十七	五	(乞)ノ下(ヒ)ヲ脱ス	千三百九十
千三百十九	二	(場所ニ) (現場ニ)	千四百三十一
千三百二十	十四	(具)ノ下(供)ハ衍	千四百五十七
千三百二十九	十五	割註(事發) (事發)	千四百六十七
千三百三十四	三	(第二節)ノ下(罰處死)ノ三字脱ス	千四百六十八
千三百四十一	九	(第六節)ノ下(溺死)ノ二字脱ス	千四百八十四
千三百四十二	九	圖面ノ右肩ニ(仰面致命) (合面不致)ヲ脱ス	千四百九十二
千三百五十一	五	(第二項)ノ下(十一字)ハ第一項ノ終リ(記スヘキ)ノ誤	正誤畢
千三百五十四	十三	(疵)ノ下(ノ)ヲ脱ス	
千三百五十六	九	(死)ノ下(亡)ノ者ニ之ヲ給スノ八字脱ス	
		(現在)ノ下(奉)ノ一字脱ス	

(丁数)	(行数)	(誤)	(正)
千三百六十四	初	(書而) (書面)	千四百六十二
千三百六十五	十四	(察旨)ノ下(官)ノ一字脱ス	千四百六十七
千三百八十四	七	(稅)ノ一字衍	千四百六十八
千三百八十七	十五	(スル)ノ下(非)ヲ脱ス	千四百八十四
千三百九十	九	(判)ノ下(病)ヲ脱ス	千四百九十二
千四百一	九	(招結)ノ下(ニ)ヲ脱ス	正誤畢
千四百三十一	九	(雛形上欄中) (何月日時何) (何月日時)何所ニ云々トスヘキ誤	
千四百五十七	九	(席ヲ) (席ニ)	
千四百六十一	初	(甲)ノ下(五)ハ衍	
千四百六十二	二	割註「十四年」 (十六年)	
千四百六十七	十三	(音リ) (音ニ)	
千四百六十八	八	(浦)ノ下(ニ)ヲ脱ス	
千四百八十四	八	(粉主ノ名)ノ下(ハ)ヲ脱ス	
千四百九十二	五	(損) (減)	

明治十九年二月二十四日出板御届
同 年三月十八日刊 行

定價金貳圓

千葉縣平民

安藤次朗

神奈川縣北多摩郡田原町
第三百九十八番地寄留

東京府平民

榊原友吉

東京府日本橋區
若松町廿壹番地

製本並
發兌元

編輯兼
板人

東京特別販賣所

日本橋區濱町二丁目	芝區三島町	日本橋區日本橋通一丁目	日本橋區日本橋通一丁目	日本橋區日本橋通一丁目	京橋區銀座二丁目	日本橋區馬喰町二丁目
高崎	山柳	須原	大倉	山中	石川	石川
脩助	市兵衛	河原	倉孫	倉孫	治兵衛	治兵衛
	梅二	屋茂	兵衛	兵衛	孝之助	孝之助
	兵衛	兵衛	兵衛	兵衛	之助	之助
	兵衛	兵衛	兵衛	兵衛	之助	之助



諸國特別販賣書館

大阪備後町	美濃岐阜	尾州名古屋	駿州静岡	武州藤澤	武州鴻巣	武州熊谷	甲州甲府柳町	下總千葉	信州長野	越後長岡	磐城福島	陸前仙臺	渡島函館
梅原龜七	三浦源助	片野東四郎	廣瀨市造	川上九兵衛	長島爲一郎	松枝悦三郎	東浦榮三郎	立眞社	西澤喜多郎	目黒十郎	萱間左右太	伊勢安右衛門	常野嘉兵衛

出版廣告

米國博士「シーエックグアリン」氏校訂

大日本高宮直大譯

● シックグエックグアリン氏英文典獨案内

紙數三百廿ページ上等香革附製本

全一冊

定價一圓廿五錢遞送料申受ス

我國ニ舶載セシ英文典ノ種類甚ダ多シト雖モ或ハ意義高尙ニ陥リ或ハ簡略ニ過キテ英語初學者ノ學修ニ便ナラザレバ常ニ攻學者ノ患フル所ナリ然ルニ獨リ「クワケンボス」氏著ノ英文典ハ意義最モ簡單明瞭ニシテ速ニ日本人ノ理解シ易キモノナレバ我國ニテモ數年來ヨリ諸學校ノ教科書ニ用ヒラレ頗ル好評ヲ博セシ良書ナリ故ニ今般英語初學者ノ便ヲ謀ラント欲シ原書原文ノ上下ニ英ノ發音ト日本ノ發語トヲ施シ恰モ慈母ノ愛兒ヲ育ツルカ如クニ叮嚀懇切ヲ極メタレバ我カ日本人ガ英語ノ學修ニ於テ最モ難シトスル文法上ノ意義モ朗誦默讀ノ裏ニ覺ヘズ知ラズ理解シ得テ少シモ困難ヲ見サル可シ殊ニ原書ハ米國博士「シーエックグアリン」氏ノ校訂ニシテ我國ノ高宮直大氏ノ譯ナレハ精確タルヤ疑ヒナシ苟モ英語速達ヲ志スノ士ニシテ一本ヲ坐右ニ供セラル、キハ實ニ獨案内ノ名ニ負カス大ニ成業ノ期ヲ速カナラシメ學修ニ裨益アルト鮮少ニアラサルベシ陸續御購求アラソコト乞フ

從五位巖谷一六先生書

●三體千字文

定價六十錢 大本全壹冊

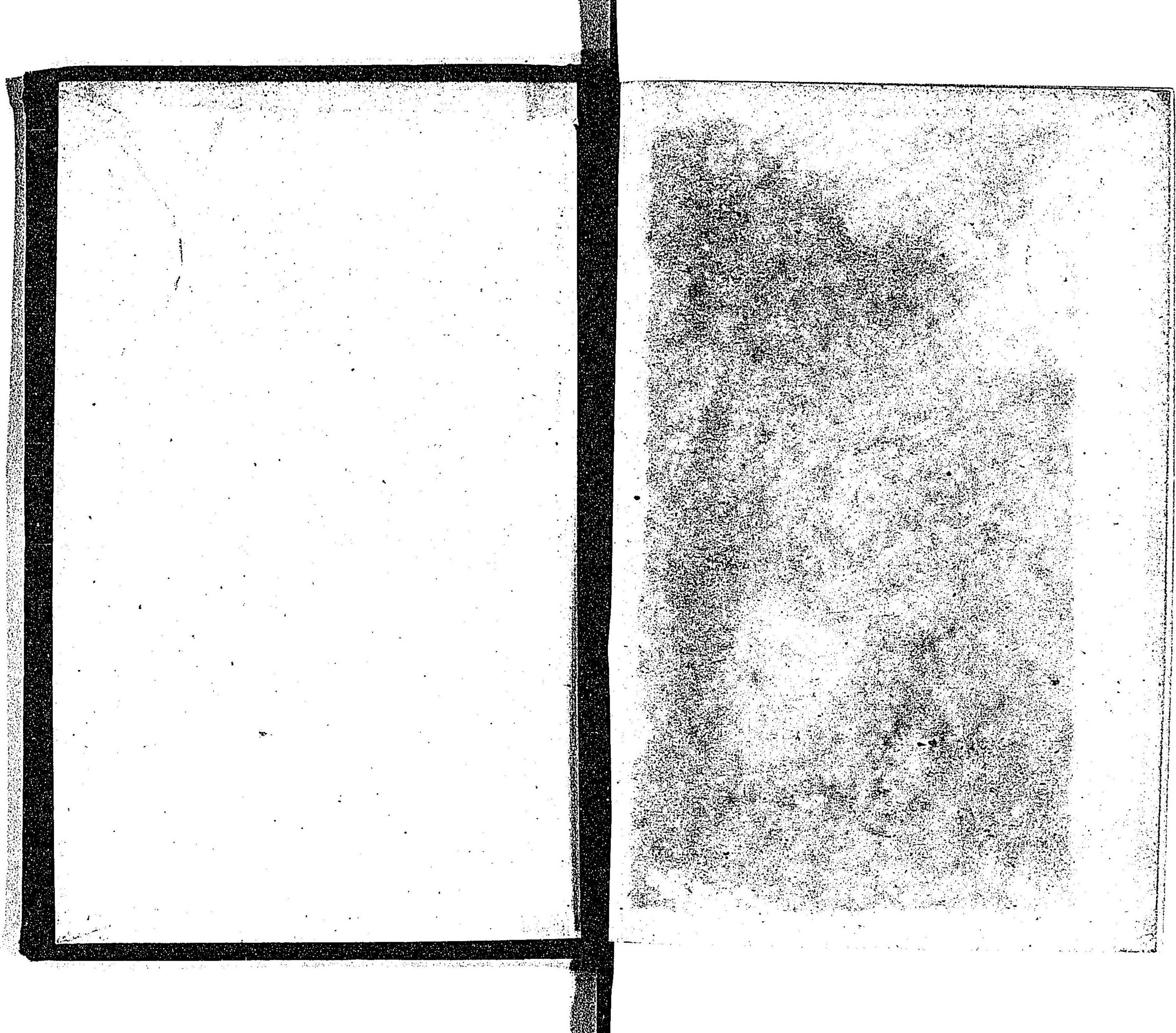
一六先生ノ書法ニ精シク且其芳名炳然タルコトハ江湖諸彦ノ普ク覺知シ給フ處ナレハ略シテ此ニ贊揚セス抑此書帖ハ先生多年ノ研修ヲ以テ眞行草ノ三體ニ分チ一體ヲ大書シ二體ヲ細書シ一目シテ全體ヲ知ルノ便ヲ謀リ尋常普通ノ體裁ニ異ナルノミナラス雲煙飛動殊ニ微妙ヲ盡サレタル者ナレハ學校用ニハ亦比類ナキ珍書ト云フヘシ弊舖之ヲ上梓スルヲ得テ胡闕ヲ擇ヒ製本ヲ美ニシ以テ世ニ公ニス故ニ先生ヲ欽仰スルノ諸君ハ勿論苟モ文筆ヲ執リ風雅ニ誇ルノ才幹諸彦一帖ヲ購求アリテ其運筆ノ非凡ニシテ氣韻ノ高然卓越ナルコトヲ御了知アレ因テ茲ニ廣告ス

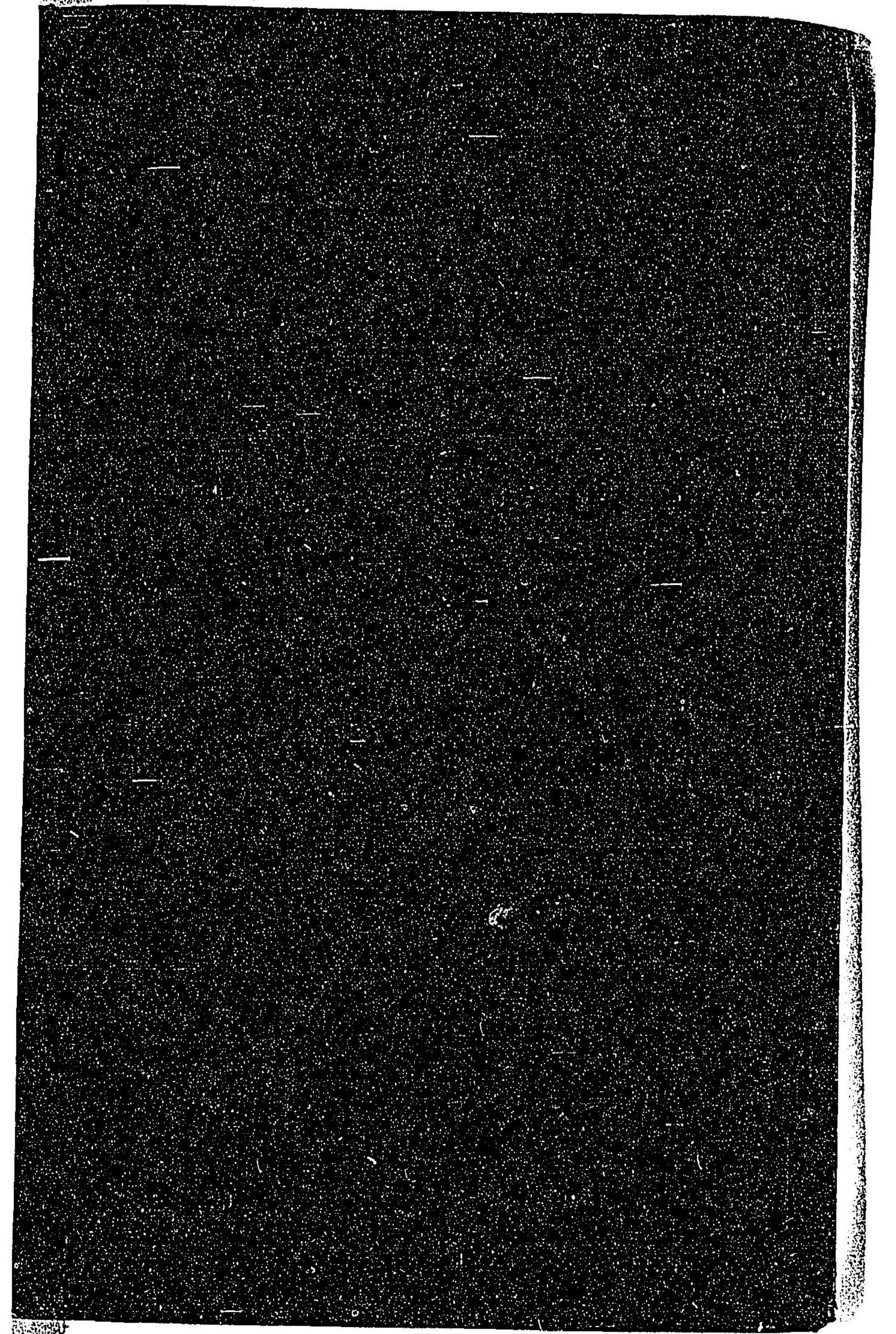
出版書肆

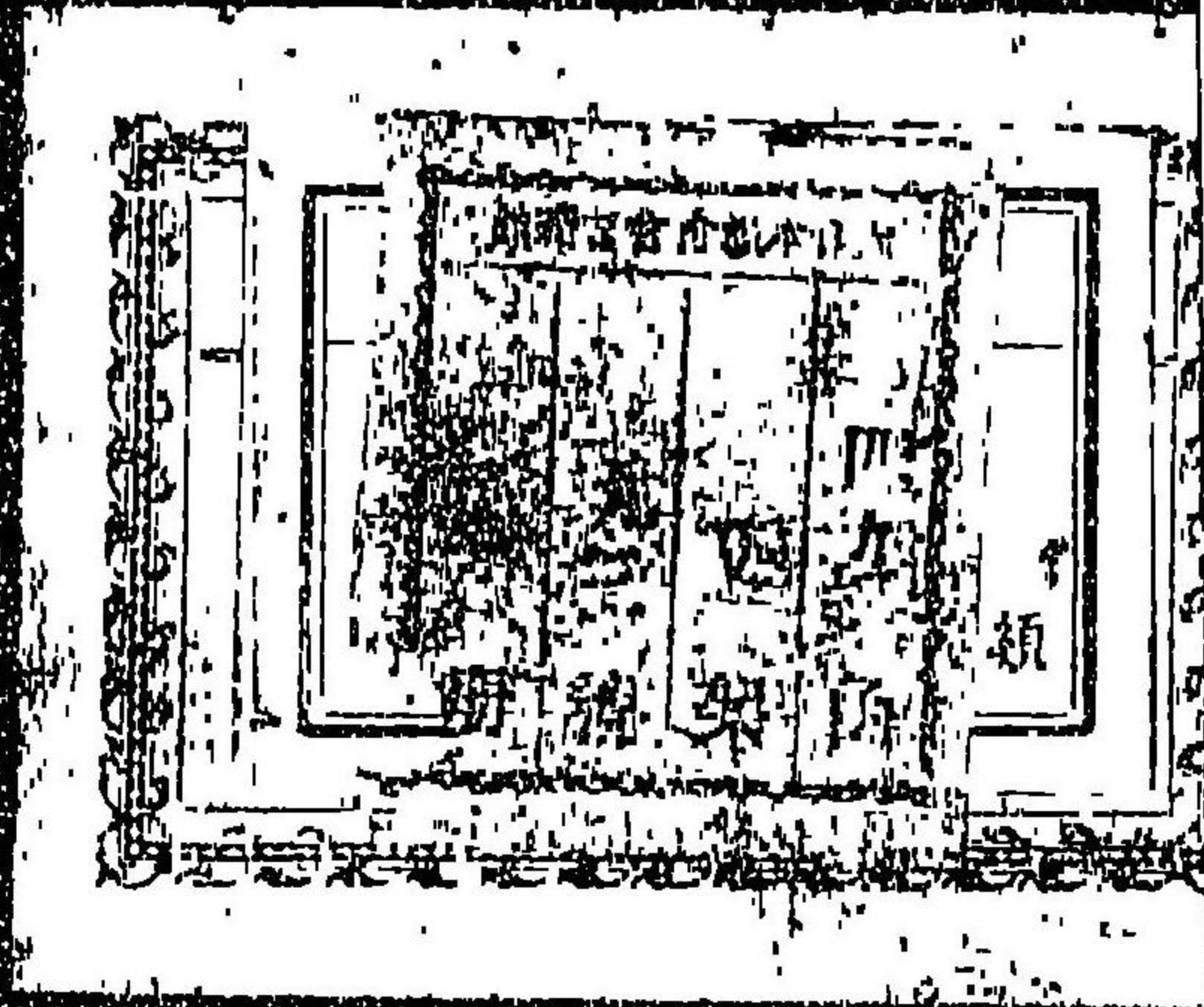
東京日本橋區若松町二十一番地

榊原友吉敬白

遠國御購求諸君ハ郵稅拾八錢相添日本橋區橋町郵便局へ御振込御注文ニ候ハ、即刻御郵送致候尤モ郵便切手代用不苦候







禁電子式複写

030880-000-2

CZ-5-096

官民必携 (物置編入新録)

安藤 次郎 / 刊

M19

BBC-0105



